

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について



国東市教育委員会
学校教育課

RO5全国学力・学習状況調査結果

正答率(%)

	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
国東市	71	64	69	52	38
全国	67.2	62.5	69.8	51.0	45.6
大分県	69	64	69	49	41
全国との差	+3.8	+1.5	-0.8	+1.0	-7.6
大分県との差	+2.0	0	0	+3.0	-3.0

 は全国平均を上回った教科

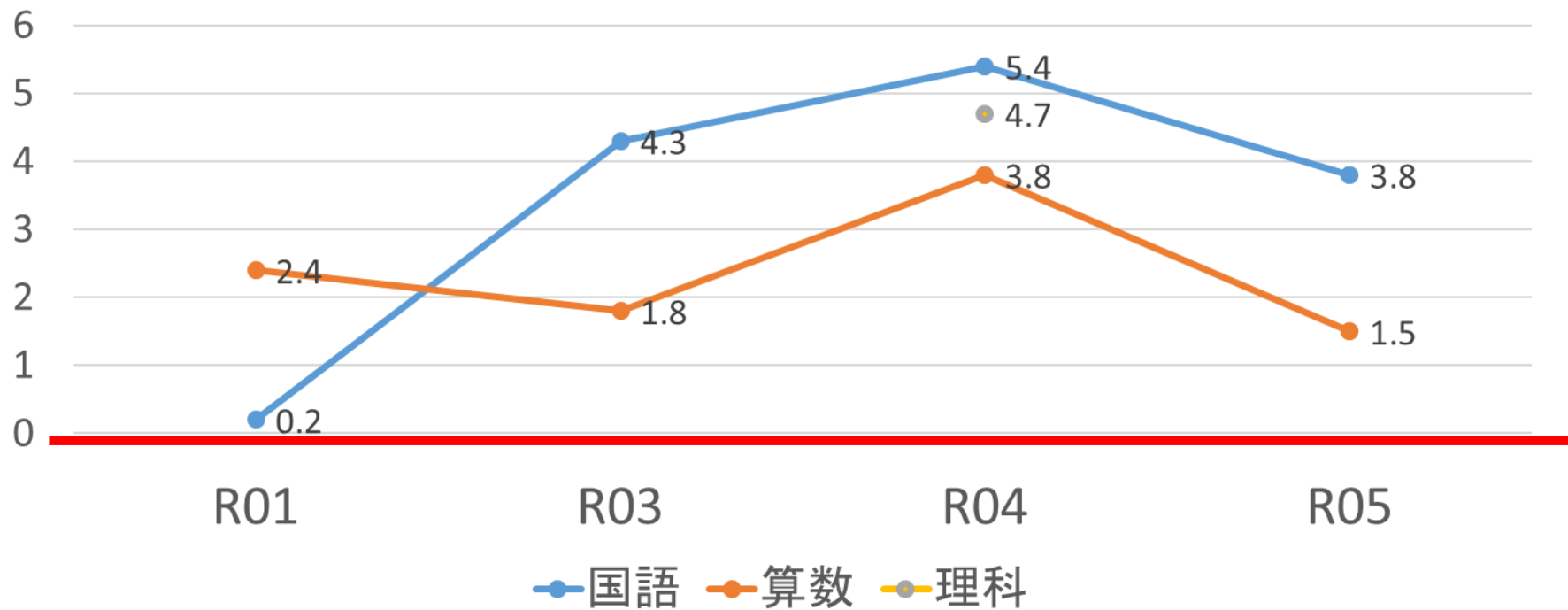
RO4全国学力・学習状況調査結果

正答率(%)

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
国東市	71	67	68	70	51	48
全国	65.6	63.2	63.3	69.0	51.4	49.3
大分県	66	64	64	69	52	49
全国との差	+5.4	+3.8	+4.7	+1.0	-0.4	-1.3
大分県との差	+5.0	+3.0	+4.0	+1.0	-1.0	-1.0

 は全国平均を上回った教科

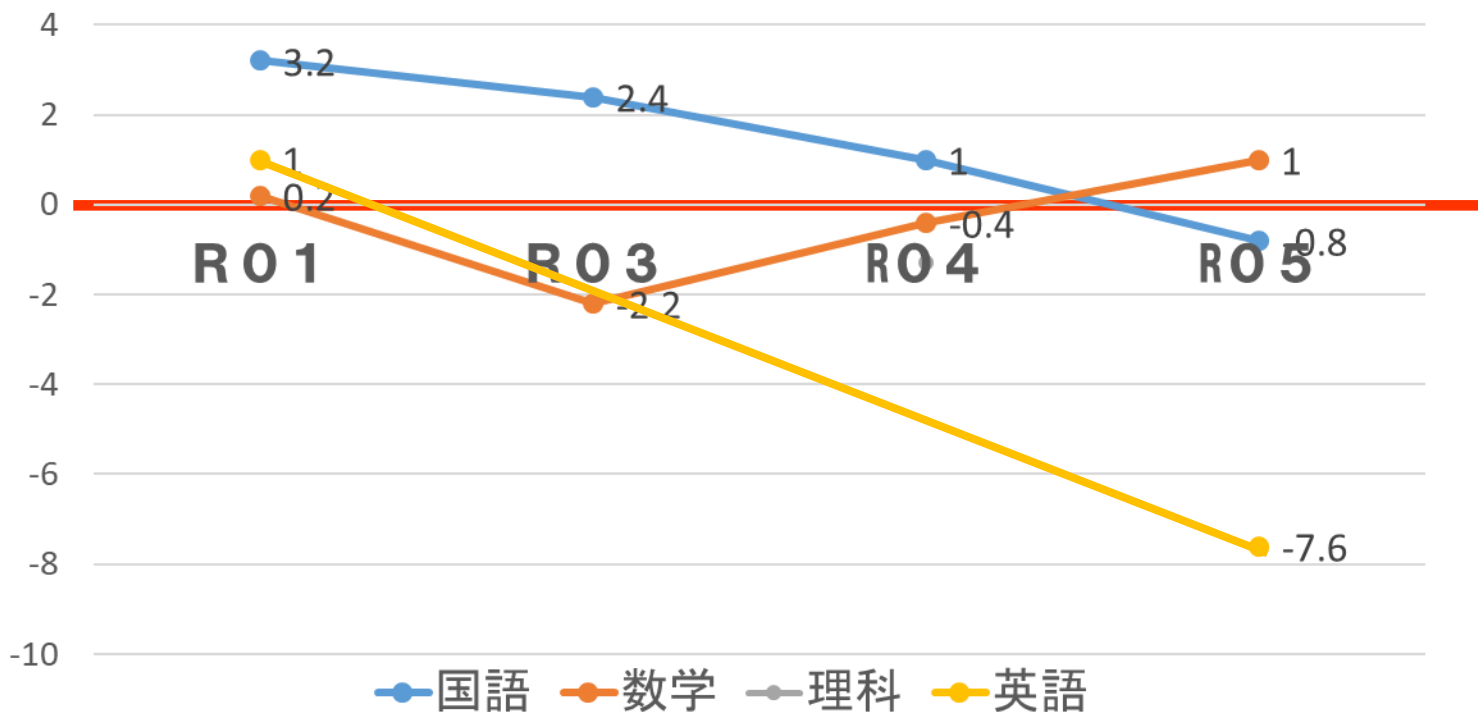
全国学力・学習状況調査：国東市と全国との正答率の差の推移（小学校）



(ポイント)

	R01	R03	R04	R05
国語	0.2	4.3	5.4	3.8
算数	2.4	1.8	3.8	1.5
理科			4.7	

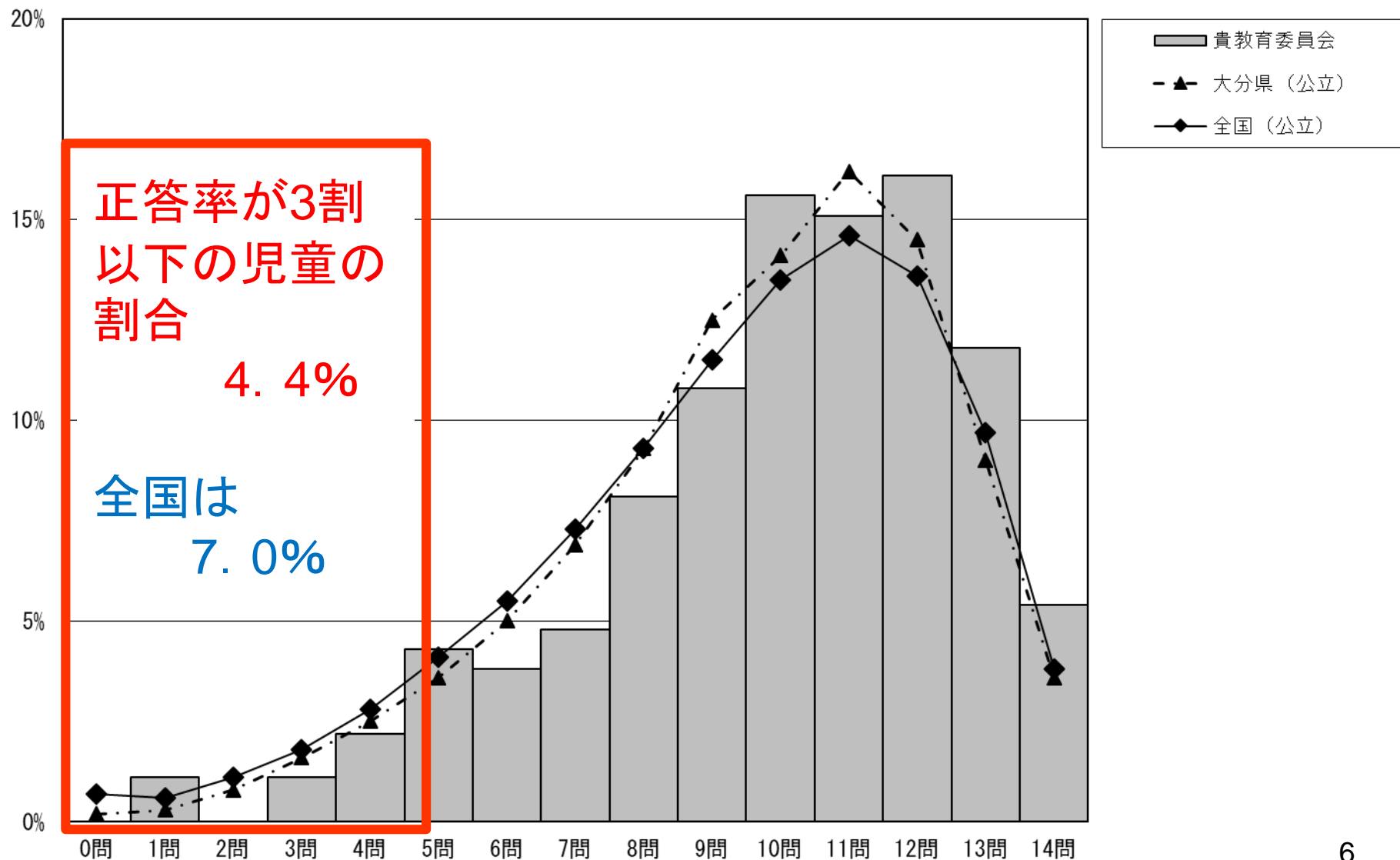
全国学力・学習状況調査：国東市と全国との正答率の差の推移（中学校）



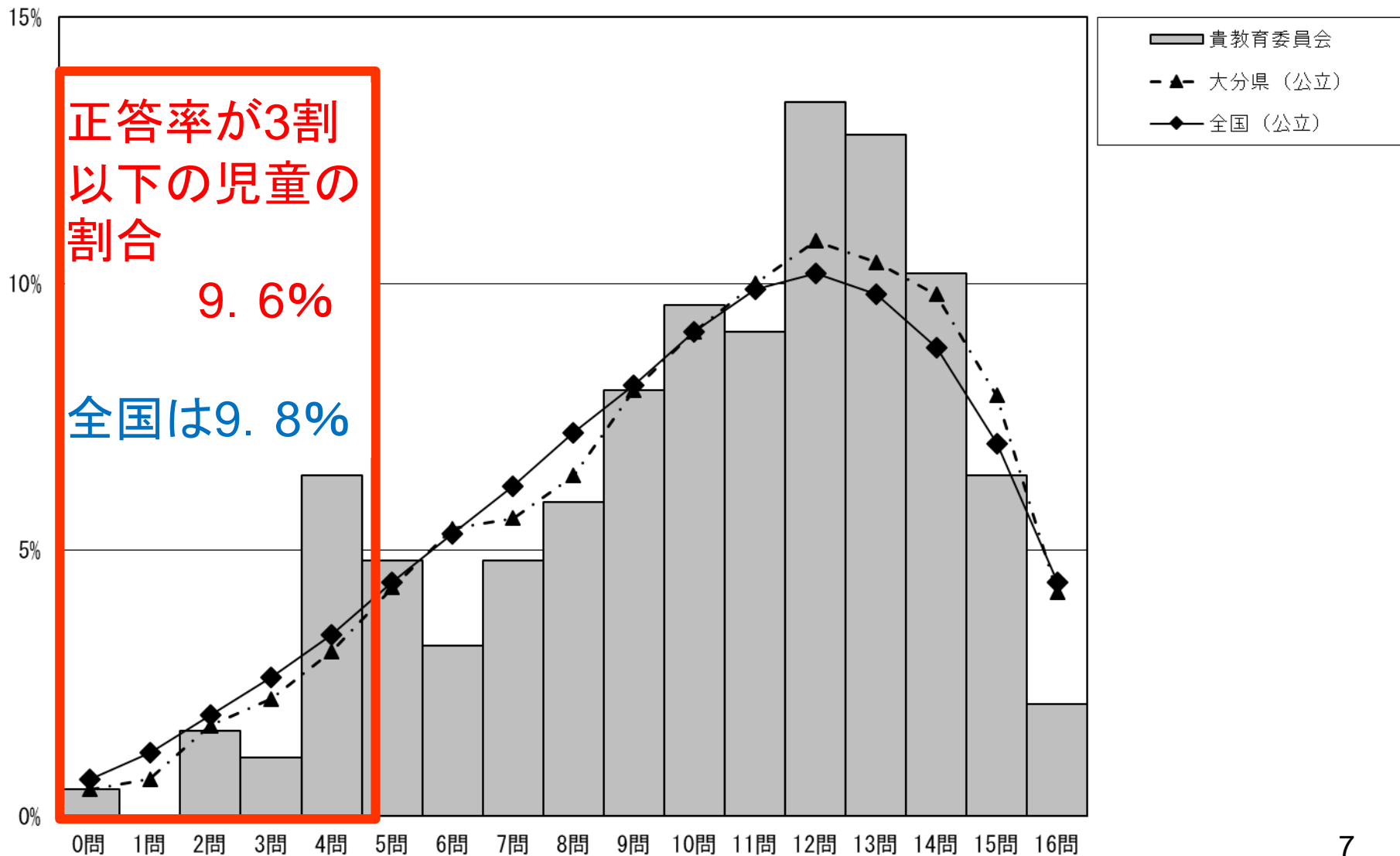
(ポイント)

	R01	R03	R04	R05
国語	3.2	2.4	1	-0.8
数学	0.2	-2.2	-0.4	1
理科			-1.3	
英語	1			-7.6

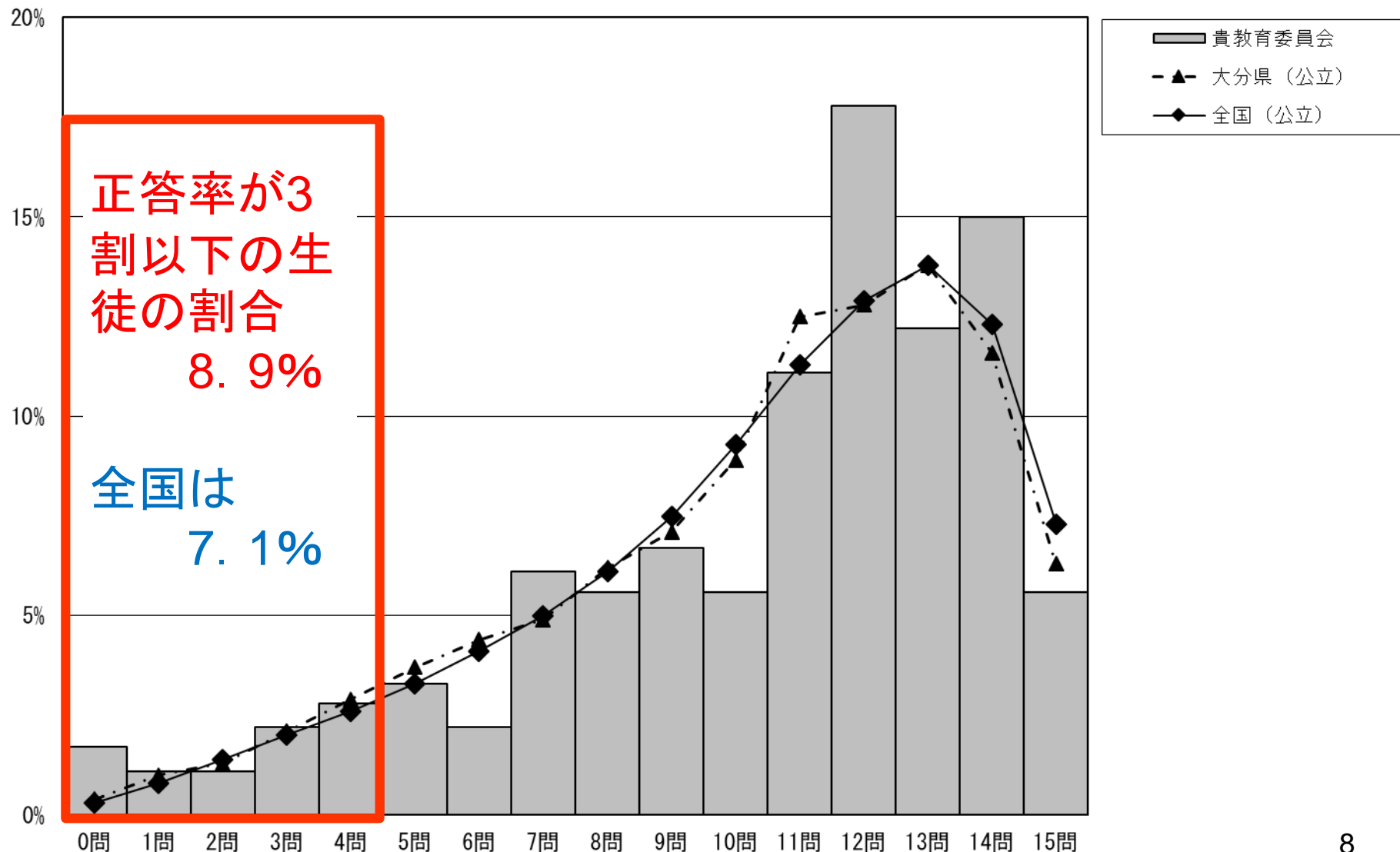
R05 全国学力・学習状況調査（国東市小学校国語度数分布）



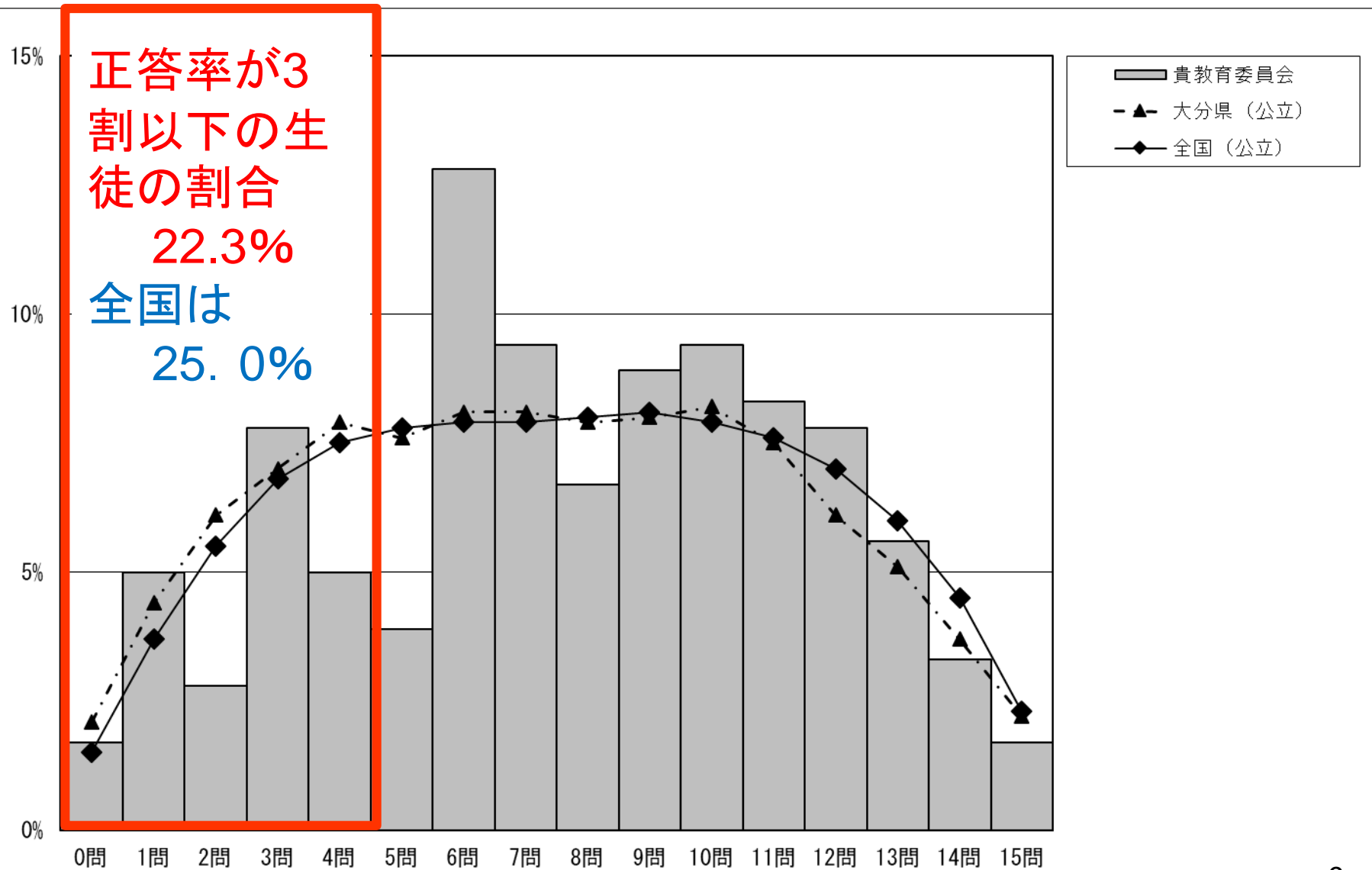
R05 全国学力・学習状況調査（国東市小学校算数度数分布）



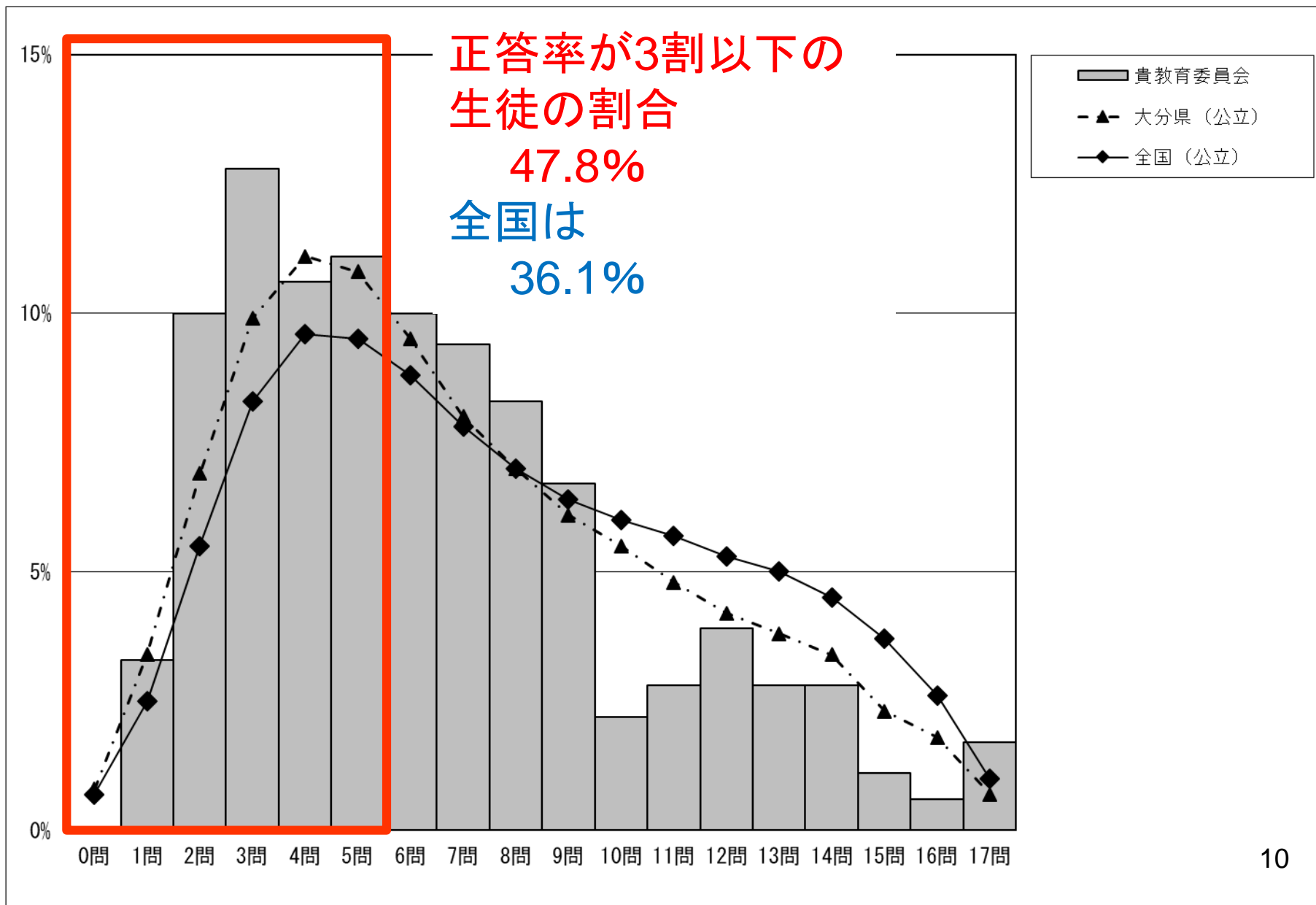
R05 全国学力・学習状況調査（国東市中学校国語度数分布）



R05 全国学力・学習状況調査（国東市中学校数学度数分布）

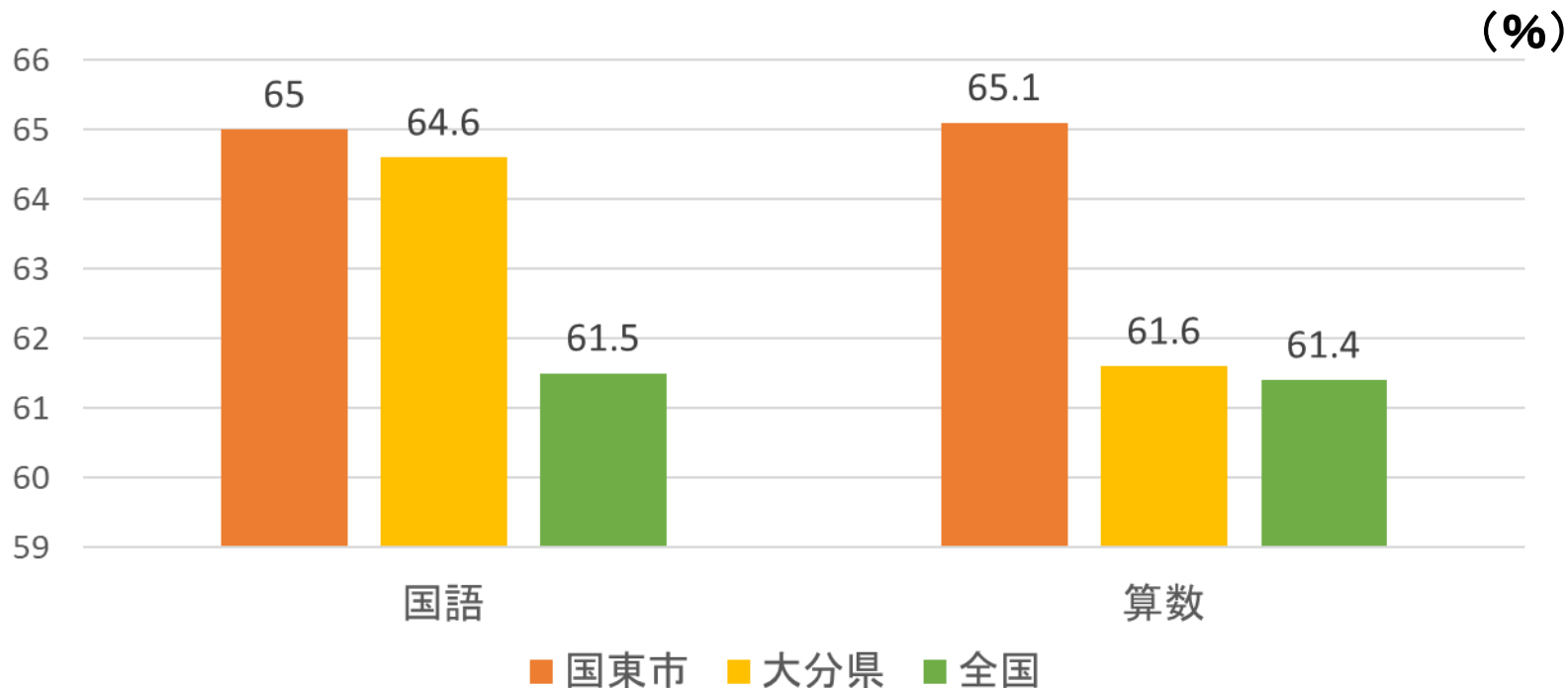


R05 全国学力・学習状況調査（国東市中学校英語度数分布）



R05 全国学力・学習状況調査(小学生生徒質問紙調査より)

教科等の勉強が好きですか？ に対して
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合

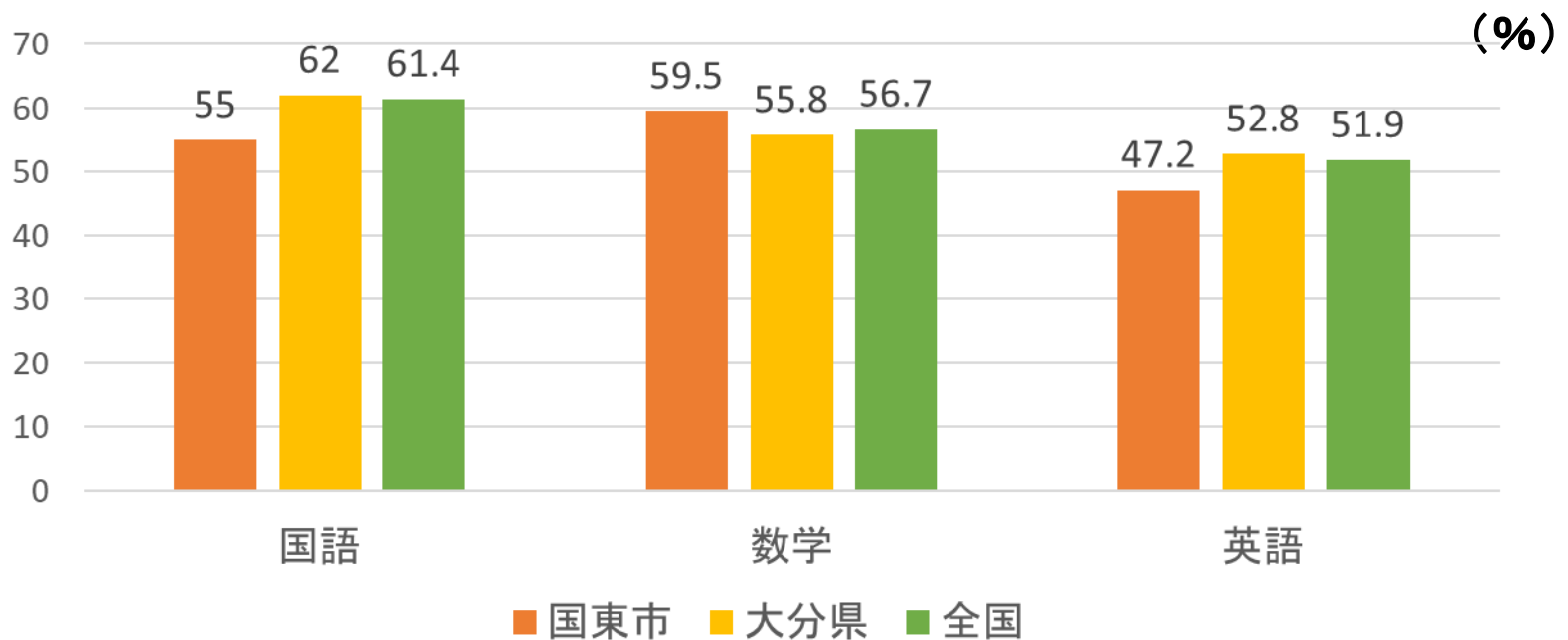


(%)

	国語	算数
国東市	65	65.1
大分県	64.6	61.6
全国	61.5	61.4

R05 全国学力・学習状況調査(中学校生徒質問紙調査より)

教科等の勉強が好きですか？ に対して
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合



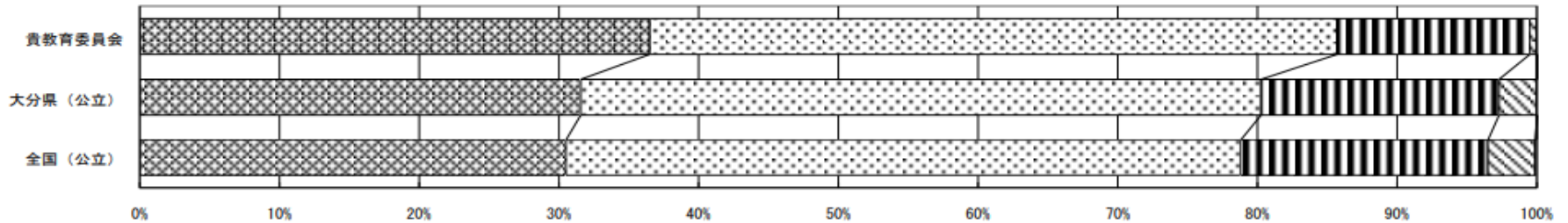
(%)

	国語	数学	英語
国東市	55	59.5	47.2
大分県	62	55.8	52.8
全国	61.4	56.7	51.9

R05全国学力・学習状況調査(小学校児童質問紙調査結果から)

質問番号	質問事項										
(33)	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴教育委員会	36.5	49.2	13.8	0.5						0.0	0.0
大分県(公立)	31.5	48.6	17.0	2.7						0.0	0.0
全国(公立)	30.5	48.3	17.7	3.4						0.0	0.1

1. 当てはまる
 2. どちらかといえば、当てはまる
 3. どちらかといえば、当てはまらない
 4. 当てはまらない
 その他
 無回答

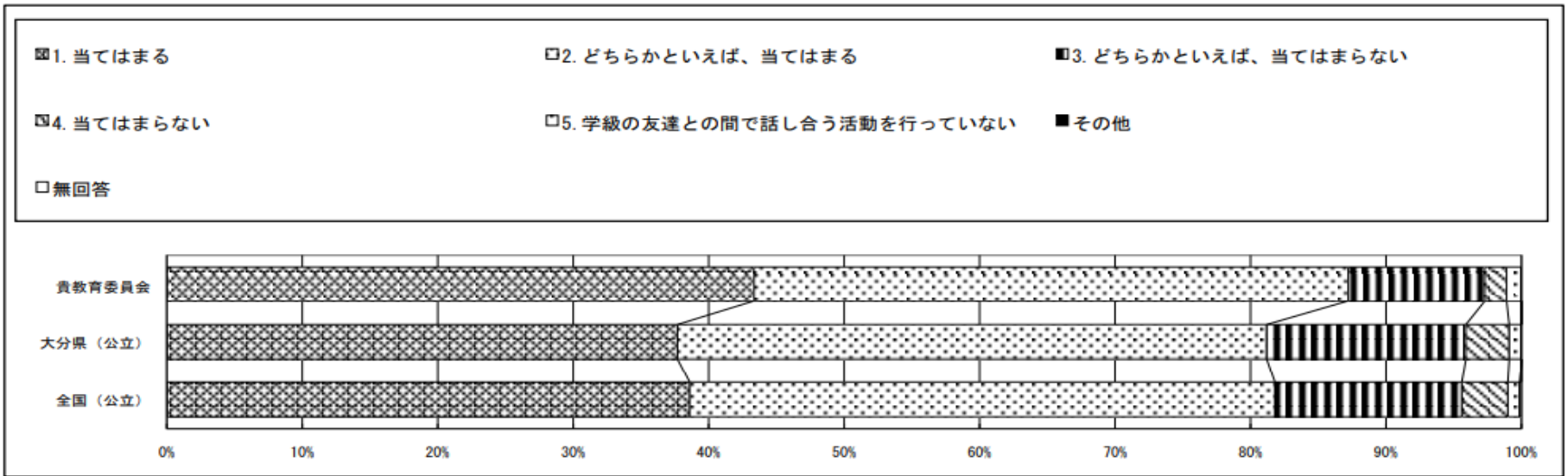


<児童が回答した選択肢別の平均正答率>

選択肢		児童数	児童数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語(14問)	算数(16問)
1	当てはまる	68	36.4	78.0	69.9
2	どちらかといえば、当てはまる	92	49.2	69.3	62.9
3	どちらかといえば、当てはまらない	26	13.9	58.9	52.6
4	当てはまらない	1	0.5	78.6	62.5

R05全国学力・学習状況調査(小学校児童質問紙調査結果から)

質問番号	質問事項										
(36)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴教育委員会	43.4	43.9	10.1	1.6	1.1					0.0	0.0
大分県(公立)	37.7	43.5	14.7	3.2	0.9					0.0	0.0
全国(公立)	38.6	43.2	13.8	3.4	0.9					0.0	0.1

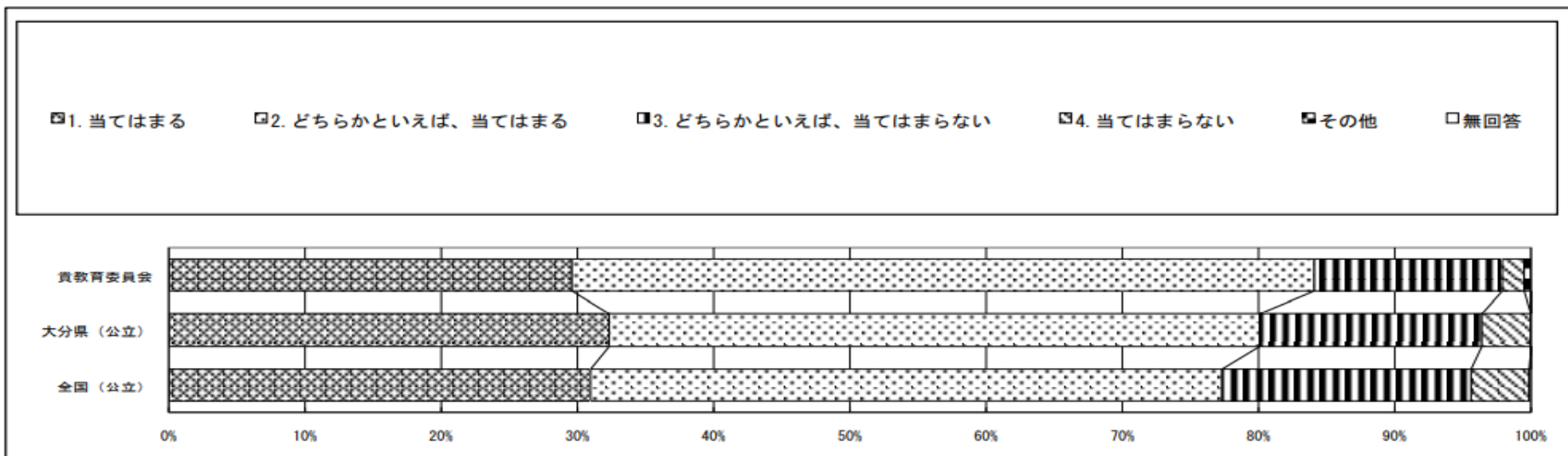


<児童が回答した選択肢別の平均正答率>

選択肢		児童数	児童数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語(14問)	算数(16問)
1	当てはまる	81	43.3	77.2	70.3
2	どちらかといえば、当てはまる	83	44.4	69.0	60.4
3	どちらかといえば、当てはまらない	19	10.2	60.2	61.2
4	当てはまらない	2	1.1	35.7	25.0
5	学級の友達との間で話し合う活動を行っていない	2	1.1	53.6	28.1

R05全国学力・学習状況調査(小学校児童質問紙調査結果から)

質問番号	質問事項										
(37)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴教育委員会	29.6	54.5	13.8	1.6						0.5	0.0
大分県(公立)	32.3	47.7	16.3	3.6						0.0	0.0
全国(公立)	31.0	46.4	18.3	4.3						0.0	0.1

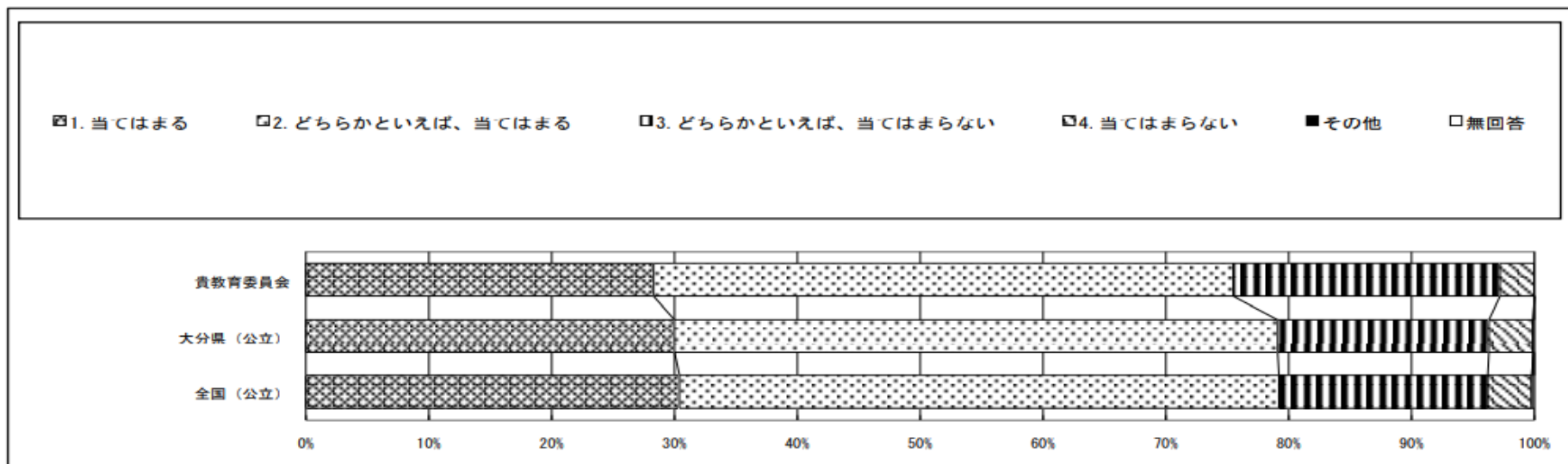


<児童が回答した選択肢別の平均正答率>

選択肢		児童数	児童数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語(14問)	算数(16問)
1	当てはまる	55	29.4	74.4	66.1
2	どちらかといえば、当てはまる	103	55.1	71.2	64.6
3	どちらかといえば、当てはまらない	25	13.4	65.1	59.3
4	当てはまらない	3	1.6	61.9	56.3

R05全国学力・学習状況調査(中学校生徒質問紙調査結果から)

質問番号	質問事項										
(37)	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴教育委員会	28.3	47.2	21.7	2.8						0.0	0.0
大分県(公立)	30.0	49.1	17.2	3.6						0.0	0.1
全国(公立)	30.4	48.8	17.0	3.6						0.0	0.2

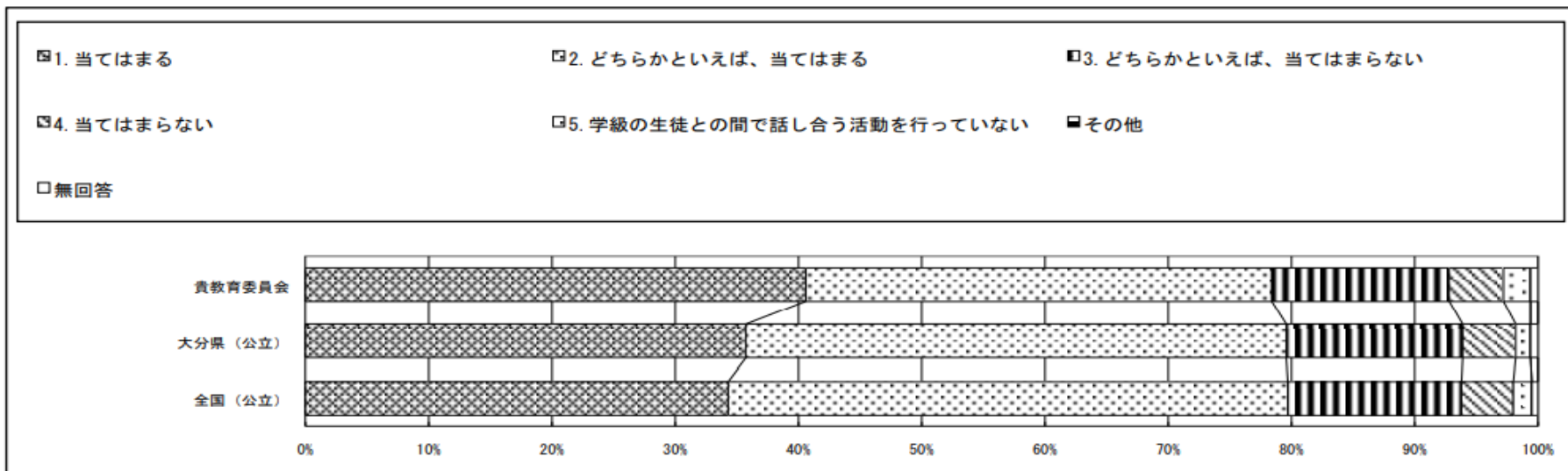


<生徒が回答した選択肢別の平均正答率>

選択肢		生徒数	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		
				国語 (15問)	数学 (15問)	英語 (17問)
1	当てはまる	51	28.5	76.7	61.7	46.6
2	どちらかといえば、当てはまる	84	46.9	70.2	51.8	38.2
3	どちらかといえば、当てはまらない	39	21.8	63.2	40.2	26.7
4	当てはまらない	5	2.8	26.7	25.3	25.9

R05全国学力・学習状況調査(中学校生徒質問紙調査結果から)

質問番号	質問事項										
(40)	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴教育委員会	40.6	37.8	14.4	4.4	2.2					0.0	0.6
大分県(公立)	35.7	43.8	14.3	4.3	1.2					0.0	0.6
全国(公立)	34.3	45.4	14.1	4.2	1.5					0.0	0.5

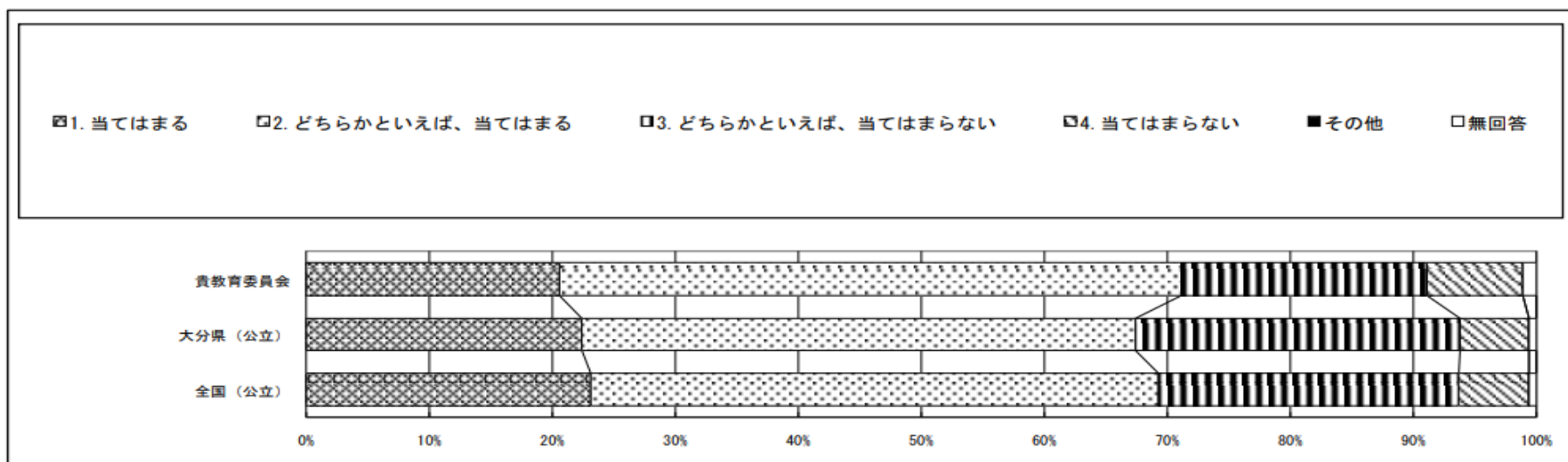


<生徒が回答した選択肢別の平均正答率>

選択肢	生徒数	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		
			国語(15問)	数学(15問)	英語(17問)
1 当てはまる	73	40.8	74.9	53.5	42.0
2 どちらかといえば、当てはまる	67	37.4	69.9	55.2	38.4
3 どちらかといえば、当てはまらない	26	14.5	67.7	48.2	32.4
4 当てはまらない	8	4.5	45.0	29.2	25.7
5 学級の生徒との間で話し合う活動を行っていない	4	2.2	25.0	18.3	16.2

R05全国学力・学習状況調査(中学校生徒質問紙調査結果から)

質問番号	質問事項										
(41)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴教育委員会	20.6	50.6	20.0	7.8						0.0	1.1
大分県(公立)	22.4	45.0	26.4	5.6						0.0	0.6
全国(公立)	23.1	46.1	24.4	5.7						0.0	0.6



<生徒が回答した選択肢別の平均正答率>

選択肢		生徒数	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		
				国語 (15問)	数学 (15問)	英語 (17問)
1	当てはまる	37	20.7	76.2	62.0	49.9
2	どちらかといえば、当てはまる	91	50.8	71.1	53.6	39.2
3	どちらかといえば、当てはまらない	35	19.6	66.3	42.1	25.4
4	当てはまらない	14	7.8	48.6	33.3	28.2

全国学力調査の結果から

○正答率3割未満の児童生徒割合（全国との比較）

小学校・・・国語・算数ともに全国の割合よりも小さい

中学校・・・数学は全国よりも小さいが、国語・英語は全国の割合よりも大きい

（特に英語は全国の割合よりも10%以上大きかった）

→全員が参加できる授業づくりを学校全体で推進（個別の支援、pointAB）

○教科への愛好度

小学校・・・県や全国よりも愛好度は高い

中学校・・・数学は全国よりも高いが、国語・英語は全国よりも低い

→正答率との関連が強くうかがわれる

→今後も児童生徒が主体の「わかる・楽しい」授業づくりを

全国学力調査の結果から

○課題の引き受け

小学校、中学校ともに肯定率が高い←授業改善の成果

課題への主体的な学習に対して肯定的な児童生徒の平均正答率は高い

→全員が課題を引き受け、主体的に学習を進めていくことができる課題を

→課題提示までの流れの工夫及び課題提示後の丁寧な見取りを

○授業の振り返り

全国よりも肯定的な回答が多い

→視点を明確にした主体的な振り返りをどの時間でも行い、学習を深めたり次時につなげたりする

令和5年度 国東市：全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 結果のポイント

- 平均正答率は、全国平均と県平均を上回った。

	国東市	大分県	全国
平均正答率	71	69	67.2

<領域別正答率>

教科	領域	国東市	大分県	全国
国語	話すこと・聞くこと	77.6	76.0	72.6
	書くこと	27.4	28.3	26.7
	読むこと	75.1	72.9	71.2

- 「話すこと・聞くこと」「読むこと」は正答率が全国平均と県平均を上回った。
- 「書くこと」は正答率が全国平均を上回ったが、県平均を下回った。

2 課題が見られた問題と指導の改善事項

(1) 書くこと (1 — 二)

(出題のねらい：図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。)

- 【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く。(国東市 27.4%・全国 26.7%)
- 自分の考えが伝わるように書く際には、図表やグラフなどを用いるなどして、書き表し方を工夫することが大切である。
- 伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためにはどのような図表やグラフなどを用いるとよいかを児童が考えられるようにすることが大切である。
- 観察や実験、調査の結果などの事実の記述は、図表やグラフを用いることで自分の考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できるものとなることから、他教科などに関連して指導することも考えられる。
- 児童の学習状況に応じて、教師が、図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することも考えられる。

(2) 言葉の特徴や使い方に関する事項 (1—三 (1) ア)

(出題のねらい：学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる)

- 【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す。[いがい] (国東市 58.1%・全国 52.8%)
- 漢字を書くことについては、当該学年の前の学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにするとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うように指導することが重要である。
- 学習指導に当たっては、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くようにすることが大切である。第1学年及び第2学年では、文や文章の中で漢字を読むことや、文脈の中での意味と結び付けていくようにすることが大切である。第3学年及び第4学年は、漢字による熟語などの語句の使用が増えてくる時期であるため、漢字辞典を使って漢字の読みや意味などを自分で調べる活動を積極的に取り入れ、習慣として定着することが大切である。第5学年及び第6学年は漢字による熟語などの語句の使用が一層増加する時期であるため、同音異義語に注意し、漢字の持つ意味を考えて使う習慣が身につくようにすることも大切である。

3 指導の改善のポイント

(1) これからの国語科の授業づくりの基本的な考え方

①主体的・対話的で深い学びを促すために、以下の8点について留意し、単元構想と授業実践を行うことが大切である。

ア 児童が興味をもつ教材・題材	イ 魅力的な課題の提示、児童による課題の発見
ウ 学習の見通し、本時の目標（めあて）の明示	エ 課題解決的な学習、既習事項を活用する学習
オ 自分の考えを発表・交流する機会	カ 「できた」「わかった」の実感
キ 「できたこと」「わかったこと」の振り返り	ク 日常生活、社会生活への広がり

②国語科は、児童に付けたい力を付けるために、言語活動を単元全体で取り扱い、言語活動を通して指導事項を指導する教科である。学習指導要領改訂後も、国語科の言語活動で育成した言語能力は、他教科の基幹になることは言うまでもなく、今後とも更なる言語活動の充実を図り、授業改善を推進していくという方針は不変である。

(2) 国語科授業改善の方向性

これまでの国語科の授業を振り返った上で国語科の授業改善の方向性を以下に示す。（具体的留意点）

①適切な言語活動の設定とその充実

ア) 付けたい力を付けるのにふさわしい言語活動であるか

- ・単元を構想する際には、付けたい力と言語活動との領域のミスマッチはないか、よく吟味する必要がある。そして、主たる学習活動の設定時間数は十分であるかも併せて考えておきたい。
- ・言語活動を設定した後、課題解決のための手法は適切であるかを考えていく。場合によっては、児童の学習状況（付けたい力が付いているのか等）を把握しながら、弾力的に修正していくことも大切である。

イ) 多様な図書資料等が有効に活用されているか

- ・目的に応じた言語の能力を身に付けさせるために、国語科の教科書だけでなく、多様な図書資料等（書籍、新聞、その他のメディアからの情報）を用いることが必要である。多様な図書資料等を活用する中で、例えば必要な情報を素早く見付ける読みや、必要な部分を詳細に分析する読みの指導が可能となる。また、自分の考えを深めたり広げたりするためにも学校図書館等を利活用し、多様な情報を関連づけて読むことの指導にあたる必要がある。
- ・そのためにも、「不読者」を少なくする取組が必要である。まとまった量の文章を素早く読むことが苦手な児童の学力を育成する基盤として、本に慣れ親しませることが求められる。また、読書によって豊かな語彙形成につながったり、自分を高めたりできるという視点からも、引き続き読書指導の在り方を見直す必要がある。

ウ) 既習事項（または知識・技能）を活用する言語活動であるか

エ) ウ) のために知識・技能の確実な定着を図っているか

オ) 児童の興味関心を喚起する言語活動であるか

- ・興味関心を喚起する言語活動を行えば、国語科の学習が「好き」という気持ちが強くなり、学びに向かう力につながる。

カ) 発表や交流活動を設定した言語活動であるか

- ・本当に話し合いが必要なのか、必要であれば、どのような形式の話し合いが適切であるのかを吟味した上で行うことが大切である。また、ペア学習やグループ学習のみに終わらないために、児童自身に気付かせることと教師が教えるべきことの整理をしておく必要がある。
- ・話し合う手段をとる際には、「何のために」「何の力を高めるために」行うのかということ、児童自身にも自覚させるように心がけたい。
- ・発表の際、ただ原稿を読み上げるようなものになっていないか、ということも重要な指導のポイントである。例えば、メモをもとに発表する、ということも活用力を高める上で非常に重要である。

②児童の主体的な学びを促す「めあて」等の設定、指導に生かせる「より具体的な評価規準」の設定

ア) 適切な「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の設定があるか

- ・以下の資料を参考にして、設定すること。（大分県教委 HP）
「新大分スタンダードに基づく授業改善 Q&A」

「早わかり！ 単元計画の作成手順 ～資質・能力の確実な育成のために～」

イ) 指導事項・指導領域・評価の焦点化が見られるか

ウ) 単元・指導過程・本時の評価規準に整合性があるか

- ・単元の評価規準→指導過程の評価規準→本時の評価規準という道筋で、整合性をもったより具体的な評価規準（概ね満足できる状況）を設定することが求められる。見取りができてにくい評価規準は、指導・支援が曖昧になってしまうと考えられる。

エ) 「B 概ね満足できる」状況が具体的に想定され、それを判断する場面や方法は具体的で適切であるか

- ・評価の場面は1時間で1、2箇所が妥当である。

オ) 「C 努力を要する状況」の児童への指導や支援は行われているか、またその方法（手段）は有効であるか

- ・具体的な評価規準から本時のめあてを設定すること、また、評価規準に基づき「C 努力を要する状況」の児童を見極め、「B 概ね満足できる状況」になるよう効果的な支援を行うことが必要である。

③参考資料を活用した授業実践

○全国学力・学習状況調査の調査問題

○「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」

<https://www.nier.go.jp/jugyourei/r05/index.htm>

○「平成28年度『小学校学力向上対策支援事業』 個に応じた指導の手引き 小学校 国語科・算数科編」

(3) その他、国語科授業で取り組むべきこと

①学習用語の確実な理解

- ・必要な言葉を使用し、言葉で思考を深めることが必要である。そのために、小学校で使用する教科書に掲載されている学習用語は、その学年で確実に理解させることが大切である。既習の用語は授業で使わせ、指導者が曖昧な言葉を使わないようにしなければならない。

②記述する活動の充実

- ・記述は、「書くこと」の指導だけでなく、3領域の力を向上させるのに有効である。

例（話す・聞く）インタビュー等の取材メモ、スピーチ原稿等

（書く）鑑賞文、図表などを用いた説明・記録、案内、意見文、批評文

（読む）文章を読んで解釈し、自分の考え（感想や意見、評価、批評等）を明確に書くこと。

目的に応じて本文を引用したり要約したりすること。

- ・また、条件に即応して記述しなければならない場面を設定することも有効である。時間・字数・文章の形態や種類・文体・テーマ・対象・使用語彙・要約・引用・例示・技法・構成等、条件を踏まえる必然性のある課題を設定していきたい。

(4) 学校全体で取り組むべきこと

①漢字や語句、文法、表現技法等の習得

- ・漢字や語句、文法等の確実な習得には、繰り返し練習が不可欠である。特に漢字は一度覚えても使わなければ忘れてしまう。繰り返し学習できる環境を学校全体で整えることが大切である。また、国語科以外の教科の時間に、既習の漢字を必ず使用するよう指導することも大切である。

②全校一斉読書や各教科における学校図書館の活用

- ・様々な力を下支えするものとして、活字に親しむことが必要である。その際、文学的文章だけでなく科学的な読み物等にも手を伸ばすように指導する必要がある。学校司書等と連携し、バランスのよい読書指導をすることが重要である。
- ・学年が上がるに従って、本だけでなく、新聞、インターネット、テレビ、ラジオ等の様々な情報を利活用することも求められる。例えば、新聞を児童の見えるところに掲示し、自然と情報が入ってくる環境を作ることその第一歩となる。また、国語科だけでなく各教科や領域において、図書館活用の推進をしていきたい。

③全国学力・学習状況調査についての研修や情報共有

- ・全国調査の結果分析を各学校の指導の充実に活かすために、学校全体で情報を共有し、授業改善のベクトルを揃えることが重要である。

1. 結果のポイント

- ・正答率は64%で、全国の62.5%を1.5ポイント上回っている。大分県は64%で同じポイントであった。
- ・領域別では、「数と計算」「変化と関係」で全国の正答率を上回っている。「図形」は0.2%「データの活用」では1.0%とわずかではあるが全国を下回っている。
- ・観点別では、「知識・技能」で1.5%、「思考・判断・表現」で1.7%、全国の正答率を上回っている。

2. 課題が見られた問題と指導の改善事項

（※全国平均を下回っていたもの・正答率が低かったもの）

- (1) 図形 2 (4) テープを直線で切った二つの三角形の面積の大小について、それぞれどのようなことを表しているのかを選び、選んだわけを書く。

① 出題のねらいと内容

高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

② 解答状況

正答率 16.6% (全国 20.8%)

- ・誤答・・・テープの幅が三角形の高さになることを捉えられていない児童が多い。テープの幅の数値も示されていないため、面積の大小について「判断できない」と解答した児童は35.8%であった。また、三角形の高さを底辺に対して垂直と考えず、底辺以外の一边を選び解答している児童が30.9%であった。

③ 指導の改善事項

三角形の面積を求めるために必要な底辺と高さの関係に着目し、三角形の底辺や高さや面積の関係を基に面積の大小を判断できるようにすることが重要である。

指導に当たっては、例えば、平行な直線にはさまれた底辺が等しい二つの平行四辺形や、二つの三角形の面積を比べる活動が考えられる。面積が等しく、形が異なる三角形の面積について、実際に計算で面積を求めることで、底辺と高さがそれぞれ等しければ、三角形の面積は等しくなることを理解できるようにすることが大切である。さらに、底辺と高さの具体的な長さが分からない場合でも、底辺と高さがそれぞれ等しければ、三角形の面積は等しくなるということを、三角形の面積の公式から判断できるようにすることも大切である。

図形の面積を求めるために、どの部分の長さが必要であるかを判断する活動も考えられる。例えば、多くの辺の長さが示されている場面において、平行四辺形の面積を求めようとするとき、

必要な情報を自ら選び出すことで、公式の理解を深めることができるようにすることが大切である。

(2) 変化と関係 **4** (1) 示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ。

① 出題のねらいと内容

百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる。

② 解答状況

正答率 44.4% (全国 46.0%)

- ・誤答・・・正答である「100人をもとにした30人の割合」「10人をもとにした3人の割合」以外を組み合わせて選択した児童が半数以上いた。
- ・100人を基準量としたときの比較量は理解しているが、10人や30人を基準量とするとそれに対する比較量は捉えることができない
- ・基準量はいつも100であると捉えている(市：20.8%全国：14.4%)
- ・30%を30人をもとにした1人と誤って捉えている(市：16%全国18.8%)
等が考えられる。

③ 指導の改善事項

日常生活の場面において百分率で表された割合について、具体的な数量の関係に基づいて理解できるようにすることが重要である。

指導に当たっては、例えば、百分率で表された割合から基準量を自ら決めて、それに対する比較量を捉える活動が考えられる。その際、図を用いて、百分率は基準量を100としたときの比較量の割合であることから、100人を基準量としたとき、それに対する比較量は30人と捉えることができるようにすることが大切である。また、歩合は基準量を10としたときの比較量の割合であることから、10人を基準量としたとき、それに対する比較量は3人と捉えることができるようにすることも大切である。

さらに、30%を「30人をもとにした1人の割合」と捉えている場合、30人を基準量としたとき、10%が3人であることから、30%が9人であることを確かめ、誤りに気付くことができるようにすることが大切である。なお、30%を小数で表すと0.3であることから、30%は「100人をもとにした0.3人の割合」とであると誤って捉えている場合、百分率で表された割合と小数の関係を理解できるようにすることが大切である。

【参考・引用】 令和5年度

全国学力・学習状況調査報告書(文部科学省・国立教育政策研究所)

令和5年度 国東市：全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 結果のポイント

・全体結果

対象生徒数	平均正答率 (%)
国東市 (180人)	69
大分県 (公立 8,618人)	69
全国 (公立 892,738人)	69.8

・分類別結果

分類		区分	平均正答率 (%)		
			国東市	大分県	全国
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	62.8	65.2	67.5
		(2) 情報の扱い方に関する事項	64.2	62.6	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	80.2	76.4	74.7
	思考力・判断力・表現力等	A 話すこと・聞くこと	83.0	81.4	82.2
		B 書くこと	57.5	60.1	63.2
		C 読むこと	63.9	62.2	63.7
評価の観点		知識・技能	70.6	69.3	69.4
		思考・判断・表現	68.8	68.1	69.7
		主体的に学習に取り組む態度	-	-	-
問題形式		選択式	72.8	71.9	73.1
		短答式	65.0	65.2	65.6
		記述式	68.1	66.6	68.0

- ・平均正答率での全国平均との比較では、差が-0.8ポイントで全国平均を下回った。
- ・内容別の全国平均との差は「言葉の特徴や使い方に関する事項」で-4.7ポイント、「情報の扱い方に関する事項」で+0.8ポイント、「我が国の言語文化に関する事項」で+5.5ポイント、「話すこと・聞くこと」で+0.8ポイント、「書くこと」で-5.7ポイント、「読むこと」で+0.2ポイントであった。

2 課題が見られた問題と指導の改善事項

3 レポートを書く（「判じ絵」）

設問一

①趣旨

- ◆読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる。
- ◆学習指導要領における内容
〔第1学年〕思考力、判断力、表現力等 B 書くこと
エ 読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。《推敲》

②解答類型と反応率

問題の概要	生徒数の割合	
	国東市	全国
レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する。		
1 1と解答しているもの	3.3	3.7
2 2と解答しているもの	13.9	12.5
3 3と解答しているもの	33.9	28.9
◎4 4と解答しているもの	47.2	54.3
5 上記以外の解答	0.0	0.0
6 無解答	1.7	0.6

◎は正解

◆分析と課題

○解答類型1～3の反応率の合計は51.1%である。このように解答した生徒は、読み手の立場に立って、語句の用法や叙述の仕方を確かめて、文章を整えることに課題がある。「もち」を「もったため」に直すことで、「ため」の前後の関係が「原因と結果」の関係になることを十分に理解しておらず、どのようなことを明確にしようとしたのかという推敲の意図を捉えることができなかったものと考えられる。

③学習指導に当たって

読み手の立場に立ち、叙述の仕方などを確かめて文章を整える

書いた文章を推敲する際には、伝えようとするものが伝わるように、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるように指導することが引き続き大切である。その際、第1学年〔知識及び技能〕の(1)エの「指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めること。」や(2)「ア原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。」などとの関連を図り、学習した知識を観点として文章を読み返すように指導することが有効である。

例えば、推敲する前と後の文章を比較し、書き換えた理由や意図を説明する学習活動が考えられる。その際、叙述の仕方などを直したことで、伝えようとするものが十分に書き表されているかなどを、読み手の立場に立って確かめることが重要である。

設問二

①趣旨

◆文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる。

◆学習指導要領における内容

〔第2学年〕知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

ウ 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450

字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。《漢字》

②解答類型と反応率

問題の概要	生徒数の割合	
	国東市	全国
漢字を書く（おし量って）		
◎ 1 「推（し）」と解答しているもの	35.0	43.9
2 上記以外の解答	51.1	45.4
3 無解答	13.9	10.7

◎は正解

◆分析と課題

○解答類型2について、「押」や「進」、「椎」などという誤答が見られ、その多くが「押」という解答であった。このように解答した生徒は、「推し量る」という言葉になじみがないなど、文脈に即して「おし」の意味を捉えることができず、同じ訓をもつ「押」と書いたものと考えられる。

③学習指導に当たって

漢字を正しく用いる態度と習慣を養う

漢字の指導においては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を読んだり書いたりすることができるように指導することが大切である。

漢字の書きについては、小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字1,026字について、中学校修了までに文や文章の中で使い慣れる必要がある。そのため、文章の中ばかりではなく、「A話すこと・聞くこと」の学習の中や、他教科等の学習や日常の会話の中でも漢字の書きについて意識するよう指導することが大切である。また、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことも大切である。その際、必要に応じて辞書を引くことを習慣付けることが有効である。さらに、1人1台端末等を活用して文字を入力する際にも、漢字がもつ意味に留意して、適切に選択する力を養うことが重要である。

なお、漢字の読みについては、学習指導要領の学年別漢字配当表に示されている漢字1,026字に加え、中学校修了までに学年別漢字配当表以外の常用漢字の大体を読むことを求めている。

設問三

①趣旨

◆ **具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる。**

◆ 学習指導要領における内容

〔第2学年〕知識及び技能

(2) 情報の扱い方に関する事項

ア 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。

《情報と情報との関係》

②解答類型と反応率

3 三	生徒数の割合	
問題の概要		
『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く (正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 内容のまとまりを分ける箇所として(ウ)を選んでいる。 ② 後半のまとまりに付ける見出しを、『判じ絵』の歴史、『判じ絵』の起源と広がり」のように解答している。	国東市	全国
◎ 1 条件①、②を満たして解答しているもの	56.7	61.8
2 条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	11.7	11.4
3 条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	7.8	5.9
4 上記以外の解答	22.2	18.8
5 無解答	1.7	2.1

◎は正解

◆分析と課題

○ 解答類型2について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ (分ける箇所) ウ、(見出し) (無解答)
- ・ (分ける箇所) ウ、(見出し) 「判じ絵」について
- ・ (分ける箇所) ウ、(見出し) 江戸時代の文化

このように解答した生徒は、「■『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた文章を内容のまとまりで適切に分けることはできているが、(ウ)以降の内容に共通する要素を抽出し、見出しを考えて書くことができていない。文章の(ウ)よりも前の部分を含めたり、(ウ)以降の文章の一部分のみに着目したりして見出しを考えたものとも考えられる。

○ 解答類型3について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ (分ける箇所) エ、(見出し) 「判じ絵」の歴史

このように解答した生徒は、「■『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた文章の後半のまとまりにふさわしい見出しを考えて書いているが、内容のまとまりで適切に分けることができていない。

③学習指導に当たって

具体と抽象など情報と情報との関係について理解する

具体と抽象の関係を理解するためには、それぞれの言葉の意味を捉えた上で、具体と抽象が、状況や必要に応じて使い分けられていることを理解することが重要である。具体とは、物事などを明確な形や内容で示したものであり、抽象とは、いくつかの事物や表象に共通する要素を抜き出して示したものである。これらのことを踏まえ、例えば、具体は例示の際など、抽象は共通する要素をまとめる際などに使われていることを、身の回りの事例と結び付けながら捉えることができるように指導することが大切である。その際、第2学年〔知識及び技能〕の(1)「エ抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。」や、第2学年〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」の(1)「イ伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫すること。」などとの関連を図り、具体と抽象の意味や関係を、語句の意味や自分が伝えようとする情報と結び付けて考えることができるように指導することが有効である。

例えば、事実や調べたことを基に自分が考えたことを伝える文章を書く際に、段落相互の関係を具体と抽象の関係という観点で見直し、文章の構成や展開を検討したり、内容で分けた文章のまとまりに小見出しを付けたりする学習活動などが考えられる。

設問四

①趣旨

- ◆ 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる。
- ◆ 学習指導要領における内容
〔第1学年〕思考力、判断力、表現力等 B 書くこと
ウ 根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。
《考えの形成、記述》

②解答類型と反応率

3 四	生徒数の割合	
問題の概要		
「『判じ絵』の解読の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解読の仕方を書く (正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① AとBのいずれか一つの〈候補〉を選んで、その記号を塗り潰している。 ② 「【図3】は、」に適切に続くように書いている。 ③ 選んだ〈候補〉について、解読の仕方を書いている。 (正答例)	国東市	全国

<ul style="list-style-type: none"> ・ A （【図3】は、）真ん中が消えている桜が描かれている。「さくら」という言葉の真ん中の「く」を消して解読すると、食事で使う「皿」という意味になる。 ・ B （【図3】は、）「砂」という漢字が逆さまに書かれているので、漢字の読み方も逆にすると、野菜の「ナス」という意味になる。 		
◎1 条件①、②を満たして解答しているもの	67.8	72.1
2 条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	13.9	12.2
3 条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	0.0	0.0
4 上記以外の解答	3.9	5.4
5 無解答	14.4	10.2

◎は正解

◆分析と課題

○ 解答類型2について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ A
（【図3】は、）真ん中が消えている桜が描かれている。描かれているものを組み合わせると、「皿」という意味になる。
- ・ B
（【図3】は、）「砂」という漢字が逆さに描かれているので、「ナス」という意味になる。

このように解答した生徒は、書いた説明の中に、選んだ「判じ絵」をどのように読み解くのかを示すことができていない。「判じ絵」の解読の面白さがより明確に伝わるようにするためには、根拠として【図2】とは異なる解読の仕方を文章の中に記述する必要があることを理解できていないものとも考えられる。

③学習指導に当たって

自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く

レポートなど調べたことや考えたことを伝える文章を書く際には、伝えたいことが伝わる文章になるように、根拠を明確にすることが大切である。そのためには、まず、根拠が、考えや言動の拠り所となるものであることを理解する必要がある。その上で、自分の思いや考えを繰り返すだけではなく、根拠を文章の中に記述する必要があることを理解して書くことが重要である。その際、根拠として、複数の事例を示したり、専門的な立場からの知見を引用したりするなど、工夫して書くことができるよう指導することも大切である。

例えば、読み手に伝えたい自分の考えを明らかにした上で、複数の事例の中からどの事例を自分の考えを支える根拠として取り上げるのかを検討したり、根拠をどのように文章中に記述すると明確になるのかを吟味したりする学習活動が考えられる。

令和5年度 国東市：全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

[数学]

1 結果のポイント

- ・全国平均との比較では、数学は+1.0ポイント（前回：-0.4ポイント）となり、全国平均を上回っている。
- ・県平均との比較では、数学は+3.0ポイント（前回：-1.0ポイント）となり、大分県平均を上回っている。
- ・領域別では、「図形」は全国平均を下回っているが、他の3つの領域で全国平均を上回っている。

2 課題が見られた問題と指導の改善事項（領域別）

(1) 数と式

《問題①》

① 出題の趣旨

自然数の意味を理解している

② 解答状況

生徒数の割合（%）

解 答 類 型		国東市	全 国
1	3、9 と解答しているもの。◎	43.3	46.1
2	3 又は 9 のどちらか一方のみを解答しているもの。	0.0	0.5
3	0、3、9 と解答しているもの。	28.9	30.1
4	-5、0、3、9 と解答しているもの。	8.3	5.8
5	3、4、7、9 と解答しているもの。	0.6	2.5
6	-5、3、9 と解答しているもの。	11.1	8.8
・上記以外の解答		7.2	6.2
・無解答		0.6	0.1

正答率は43.3%であり、全国平均正答率の46.1%を2.8ポイント下回っている。

③ 指導の改善事項

解答類型3（0、3、9を選択）の反応率は、28.9%である。このように解答した生徒は、自然数は0と正の整数であると捉えたと考えられる。解答類型6（-5、3、9を選択）の反応率は、11.1%である。このように解答した生徒は、自然数を0以外の整数と捉えている。

数の範囲を正の数と負の数にまで拡張して、数の集合を捉え直す場面を設定し、自然数や整数の意味を理解できるようにすることが大切である。

本設問を使って授業を行う際には、新しく捉え直した数の集合の定義に基づいて、様々な数の中から自然数や整数を判断する活動を取り入れることが考えられる。その際、小学校算数科においては、整数を0と正の整数を合わせたものとして捉えていたことを振り返り、中学校数学科では、負の整数を加えて、整数を正の整数（自然数）、0、負の整数と捉え直し、整数の意味についての理解を深めることが大切である。

なお、このように数の集合を捉え直すことは、第3学年の有理数や無理数の学習においても大切である。

(2) 図形

《問題3》

① 出題の趣旨

空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解している。

② 解答状況

生徒数の割合 (%)

解答類型		国東市	全国
1	1点をふくむ平面は1つに決まると解答しているもの。	7.2	6.6
2	2点をふくむ平面は1つに決まると解答しているもの。	31.7	26.3
3	1つの直線上にある3点をふくむ平面は1つに決まると解答しているもの。	32.8	35.4
4	1つの直線状にある3点を含む平面は1つに決まると解答しているもの。◎	27.8	30.4
・上記以外の解答		0.0	0.4
・無解答		0.6	0.8

正答率は27.8%であり、全国平均正答率の30.4%を2.6ポイント下回っている。

③ 指導の改善事項

正答率は、27.8%であり、空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることの理解に課題がある。

解答類型2（2点をふくむ平面は1つに決まると解答）の反応率は、31.7%である。このように解答した生徒は、2点を含む平面は幾つもあることを捉えることができていないと考えられる。

解答類型3（1つの直線上にある3点をふくむ平面は1つに決まると解答）の反応率は、32.8%である。このように解答した生徒は、一つの直線上にある3点を含む平面は幾つもあることを捉えることができていないと考えられる。

空間における平面が一つに決まるときの条件について、観察や操作などの活動を通して、実感を伴いながら理解できるようにすることが大切である。

本設問を使って授業を行う際には、空間における平面が一つに決まる条件として、「2点を含む平面は一つに決まる。」や、「一つの直線上にある3点を含む平面は1つに決まる。」など、条件として不十分なものを取り上げ、平面が一つに決まるのはさらにどのような条件が必要かを考察する活動を取り入れることが考えられる。

《問題9(1)》

① 出題の趣旨

ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる。

② 解答状況

(正答の条件)

次の(a)、(b)とそれぞれの根拠を記述し、証明しているもの。

なお、ここで根拠として求める記述は、正答例に記載されている程度のものである。

(a) $\angle BCA = \angle EAC$

(b) $BC \parallel AE$

(正答例)

$\triangle ABC \equiv \triangle CEA$ より、合同な図形の対応する角は等しいから、

$\angle BCA = \angle EAC$

よって、錯角が等しいから、

$BC \parallel AE$

(解答類型1)

解 答 類 型		国東市	全 国
1	(a)、(b)とそれぞれの根拠について記述しているもの。 ◎	7. 8	19. 0
2	(a)、(b)について記述しているが、表現が十分でないもの。 ((a)、(b)の根拠が抜けていたり、根拠の表現が十分でなかったりするものを含む。) ○	10. 6	10. 1
3	上記1、2以外で、 $BC \parallel AE$ になる理由を正しく証明しているもの。◎	1. 1	1. 7
4	上記3について、表現が十分でないもの(根拠が抜けていたり、根拠の表現が十分でなかったりするものを含む。) ○	0. 0	1. 3
5	(a)、(b)について記述しているが、証明に誤りを含んでいるもの。	3. 3	3. 3
6	(a)のみを記述しているもの。((a)について、表現が十分でなかったり、根拠が抜けていたり、根拠の表現が十分でなかったりするものを含む。)	1. 1	1. 9
7	上記6について、証明に誤りを含んでいるもの。	0. 6	0. 6
8	(b)のみを記述しているもの。((b)について、表現が十分でなかったり、根拠が抜けていたり、根拠の表現が十分でなかったりするものを含む。)	17. 8	19. 6
9	上記8について、証明に誤りを含んでいるもの。	7. 8	5. 6
・ 上記以外の解答		14. 4	12. 3
・ 無解答		35. 6	24. 7

正答率は19. 4%であり、全国平均正答率の32. 1%を12. 7ポイント下回っている。

③ 指導の改善事項

正答率は19. 4%であり、ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することに課題がある。

事柄が成り立つことを証明することができるようにするためには、構想を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切である。

本設問を使って授業を行う際には、2直線が平行であることの根拠となる事柄を捉え、その事柄を与えられた条件から導く過程を考えるとといった構想を立てる活動を取り入れることが考えられる。

例えば、直線BCと直線AEが平行になることを証明するためには、錯覚である $\angle BCA$ と $\angle EAC$ が等しいことを示せばよいと考え、そのためには仮定である $\triangle ABC$ と $\triangle CEA$ が合同であることを基にすればよいといった証明の方針を確認することが考えられる。その上で、 $\triangle ABC \equiv \triangle CEA$ から合同な図形の対応する角は等しいことを根拠として $\angle BCA = \angle EAC$ を示し、平行線になるための条件「錯覚が等しい2直線は平行である」を根拠として、結論である「 $BC \parallel AE$ 」を示すことができるようにすることが大切である。

(3) 関数

《問題8(1)》

① 出題の趣旨

与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。

② 解答状況

		生徒数の割合(%)	
解答類型		国東市	全国
1	点D、点H と解答しているもの。(順番は不問。以下同様) ◎	55.6	57.5
2	点A、点E と解答しているもの。	5.6	3.5
3	点B、点F と解答しているもの。	6.1	4.1
4	点C、点G と解答しているもの。	2.2	4.1
5	点A と 点E のどちらかと、点D と 点H のどちらかを解答しているもの。	2.2	4.0
・ 上記以外の解答		16.7	18.3
・ 無解答		11.7	8.6

正答率は55.6%であり、全国平均正答率の57.5%を1.9ポイント下回っている。

③ 指導の改善事項

解答類型2「点A、点E と解答」、3「点B、点F と解答」、4「点C、点G と解答」の反応率の合計が13.9%である。このように解答した生徒は、同じ地点の記録を表す二つの点を取り上げることはできているが、スタート地点からの道のりが4000mである「駅前」について、グラフから捉えることができなかつたと考えられる。

表やグラフと具体的な事象を対応させ、グラフ上の点が具体的な事象では何を表しているのかを捉える活動を取り入れ、与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取ることができるように指導することが大切である。

本設問を使って授業を行う際には、晴天大学と新緑大学の選手の走った様子を知るために作った6区の選手の記録のグラフにおいて、それぞれの点が何を表しているのかを読み取ることができるように指導することが考えられる。

例えば、6区の選手の記録のグラフから、二つの大学の選手について分かることを読み取る場面を設定することが大切である。その際、y座標が同じ値でx座標が異なる2点の組が複数あることに気付き、それがどのようなことを表しているかについて大悟さんがまとめた表と関連させながら話し合う活動を取り入れることが考えられる。このとき、点Dと点Hのy座標はスタート地点から駅前までの道のり、x座標は駅前を通過する時間をそれぞれ表しており、2点のx座標の差は二人の選手が駅前を通過した時間の差であると捉えられるようにすることが大切である。さらに、他の2点の組も同じように捉え、x座標の差の変化について検討することが考えられる。

(4) データの活用

《問題7(2)》

① 出題の趣旨

複数の集団のデータの分析の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。

② 解答状況

		生徒数の割合(%)
(正答の条件)		
次の(a)、(b)、(c)のいずれかと、(d)について記述しているもの。		
(a)	1991年～2005年の箱ひげ図の箱よりも2006年～2020年の箱ひげ図の箱の方が右側にあること。	
(b)	1991年～2005年の第1四分位数よりも2006年～2020年の第1	

<p>四分位数の方が大きく、1991年～2005年の第3四分位数よりも2006年～2020年の第3四分位数の方が大きいこと。</p> <p>(c) 1991年～2005年の第3四分位数よりも2006年～2020年の第1四分位数の方が大きいこと。</p> <p>(d) 2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にあること。</p> <p>(正答例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1991年～2005年の箱ひげ図の箱よりも2006年～2020年の箱ひげ図の箱の方が右側にある。したがって、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある。 (解答類型1) 1991年～2005年の第1四分位数よりも2006年～2020年の第1四分位数の方が大きく、1991年～2005年の第3四分位数よりも2006年～2020年の第3四分位数の方が大きい。したがって、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある。 (解答類型3) 1991年～2005年の第3四分位数よりも2006年～2020年の第1四分位数の方が大きい。したがって、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある。 (解答類型5) 			
解 答 類 型		国東市	全 国
1	(a)、(b)について記述しているもの。◎	15.0	12.6
2	(a)のみについて記述しているもの。○ (正答例) ・ 1991年～2005年の箱ひげ図の箱よりも2006年～2020年の箱ひげ図の箱の方が右側にあるから。 ・ 2006年～2020年の箱ひげ図の箱よりも1991年～2005年の箱ひげ図の箱の方が左側にあるから。	9.4	11.5
3	(b)、(d)について記述しているもの。◎	0.6	4.2
4	(b)のみを記述しているもの。○ (正答例) ・ 1991年～2005年の第1四分位数よりも2006年～2020年の第1四分位数の方が大きく、1991年～2005年の第3四分位数よりも2006年～2020年の第3四分位数の方が大きいから。	1.7	3.4
5	(c)、(d)について記述しているもの。◎	0.6	1.0
6	(c)のみを記述しているもの。○ (正答例) ・ 1991年～2005年の第3四分位数よりも2006年～2020年の第1四分位数の方が大きいから。	0.0	0.9
7	(a)、(b)について、箱ひげ図の箱に着目しているが、位置が異なることについての記述が十分でなかったり、2つの箱ひげ図を比較する記述がなかったりするもの。((d)についての記述がないものを含む。)	1.1	1.7
8	箱ひげ図の箱やひげの横の長さについて記述しているもの。((d)についての記述がないものを含む。)	9.4	10.2
9	上記1～8以外で、箱ひげ図から読み取れることを記述しているもの。((d)についての記述がないものを含む。)	19.4	14.3
10	箱ひげ図の読み取りを誤って記述しているもの。	2.2	1.6
11	上記以外の解答	16.7	15.8

12	無解答	23.9	22.8
----	-----	------	------

正答率は27.2%であり、全国平均正答率の33.6%を6.4ポイント下回っている。

③ 指導の改善事項

正答率は27.2%であり、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を数学的な表現を用いて的確に説明することが大切である。

本設問を使って授業を行う際には、「1961年から2020年までの記録を15年ごとの四つのまとまりとして分けて比較したとき、黄葉日はだんだん遅くなっている傾向にある」と判断できる理由について、箱ひげ図を比較することで検討し、数学的な表現を用いて説明する場面を設定することが考えられる。その際、「1991年～2005年の箱ひげ図の箱よりも2006年～2020年の箱ひげ図の箱の方が右側にあるから」、「1991年～2005年の第3四分位数よりも2006年～2020年の第1四分位数の方が大きいから」などのように、判断の根拠を箱の位置や四分位数などを用いて説明できるようにすることが大切である。また、複数の箱ひげ図を比較した際に箱の位置が右側にあるほど、黄葉日が遅くなっている傾向にあると捉えられるようにすることも大切である。

【数学】

3 指導の改善ポイント（全体を通して）

（1）数と式

- 事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明する活動の重視
- 予想した事柄が成り立つかどうかを具体的な数や文字式を用いて調べる活動の充実

（2）図形

- 身の回りにある事象を図形として捉え考察する活動の重視
- 証明を振り返り、図形の性質を論理的に考察する活動の充実

（3）関数

- 数学的に表現された結果を事象に即して解釈する活動の重視
- 事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実

（4）データの活用

- 度数分布表や代表値などを用いてデータの分布の傾向を捉える活動の重視
- データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を説明する活動の充実

（5）その他

- ・ 数学的な活動を充実させ、問題解決に向けて、見通しや目的意識を持たせ、振り返らせる活動を位置づける。
- ・ 自分の考えを深めるための書く活動や相手に分かりやすく説明するための書く活動を取り入れ、学習の流れが分かり振り返りのできるノート指導に努める。

【参考・引用】

令和5年度全国学力・学習状況調査報告書（文部科学省・国立教育政策研究所）

令和5年度 国東市：全国学力・学習状況調査結果（中学校：英語）

1 結果のポイント

・全体結果

対象生徒数	平均正答率 (%)
国東市 (180人)	38
大分県 (公立 8,634人)	41
全国 (公立 893,528人)	45.6

・分類別結果

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			国東市	大分県	全国
全体		17	38	41	45.6
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	6	49.3	53.3	58.4
	(2) 読むこと	6	44.3	47.5	51.2
	(3) 話すこと [やり取り]	4	6.9		14.5
	(4) 話すこと [発表]	1	3.1		4.2
	(5) 書くこと	5	15.9	19.1	23.4
評価の観点	知識・技能	9	42.3	46.3	51.5
	思考・判断・表現	8	32.4	35.5	38.8
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	12	46.8	50.4	54.8
	短答式	3	18.5	24.1	30.1
	記述式	2	11.9	11.7	13.5

- ・平均正答率での全国平均との比較では、7.6ポイント全国平均を下回った。
- ・領域別の全国平均との差は「聞くこと」で-9.1ポイント、「読むこと」で-6.9ポイント、「書くこと」で-7.5ポイントであった。

2 課題が見られた問題と指導の改善事項

1 情報を正確に聞き取る

設問 (2)

①趣旨

- ◆情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる。

道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する問題である。目

的地までの道順を説明する英語を聞き、情報を聞き取ることができるかどうかを把握するために出題されている。

②解答類型と反応率

問題番号	回答類型	◎は正解	国東市	全国
1	(2)	1 と解答しているもの ◎	49.4	64.9
		2 と解答しているもの	12.8	10.0
		3 と解答しているもの	21.1	12.7
		4 と解答しているもの	16.7	12.2
		上記以外の解答	0	0
		無解答	0	0.2

◆分析と課題

- 正答率は 49.4%である。目的地までの道順を説明する英語を聞き、情報を聞き取ることが身につけているとは言えない。
- 解答類型 2、3、4 に該当する生徒は、turn right や on your left という情報を聞き取ることができていないと考えられる。

設問 (3)

①趣旨

◆情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる。

買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する問題である。店員と客の会話を聞き、情報を聞き取ることができるかどうかを把握するために出題されている。

②解答類型と反応率

問題番号	回答類型	◎は正解	国東市	全国
1	(3)	1 と解答しているもの	2.8	3.2
		2 と解答しているもの	1.7	1.6
		3 と解答しているもの	57.2	44.5
		4 と解答しているもの ◎	38.3	50.5
		上記以外の解答	0	0
		無解答	0	0.2

◆分析と課題

- 正答率は 38.3%である。店員と客の会話から、情報を正確に聞き取ることには課題がある。解答類型 1 の反応率は 2.8%、解答類型 2 の反応率は 1.7%とそれぞれ低く、解答類型 3 の反応率は 57.2%と高いことから、the bigger one という情報を「より大きいもの」という意味で聞き取ってはできているが、some stars on it という弱形になる箇所や音の変化が起きる箇所を聞き取ることができていないと考えられる。
- また、解答類型 3 に該当する生徒は、代名詞 one の用法を十分に理解しておらず、the bigger one という情報を「より大きな星が 1 つあるバッグ」という誤った意味で聞き取っていることも考えられる。

③ (2) (3) の学習指導に当たって

学習者用デジタル教科書などを活用しながら、「聞くこと」の活動を繰り返し行い、情報を正確に聞き取ることができるようにする

情報を正確に聞き取るためには、音声や語彙、表現、文法や言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けておくことが重要である。

特に聞く「技能」の指導に当たっては、以下のような学習活動に取り組むことが考えられる。

- ・ 自然な速さで話される音声を聞いて、語と語の連結による音変化や強勢による英語特有のリズム、イントネーションに慣れる活動
- ・ 意味のまとまりを意識しながら区切って聞いたり音読したりする活動

これらの学習活動を一時的なものにせず、言語活動を行う際に、継続的に行っていくことが必要である。

情報を正確に聞き取るためには、抱えている課題が「知識」の側面なのか、それとも「技能」の側面なのかを把握し、個々の課題に応じた支援をしていくことも大切である。

例えば、音声の速度を調節し、ゆっくりと話された音声であれば聞き取ることができる場合には、「技能」の側面に課題があることが考えられる。こうした場合には、学習者用デジタル教科書などを活用して、音の変化に着目して特定の箇所を聞いたり、速度を落として何度も聞き直したりするように指導することが必要である。その際、個別最適な学びの観点から、生徒自身が聞く箇所や音声の速度を選択することなどが大切である。

一方、ゆっくりと話された音声であっても聞き取ることができない場合には、「知識」の側面に課題があることが考えられる。こうした場合には、話された内容における語彙や表現、文法などを理解するように指導することが求められる。

8 短い文章の要点を捉えて、考えとその理由を書く

設問 (1)

①趣旨

◆社会的な話題について、短い文章の要点を捉えて、それに対する自分の考えとその理由を書くことができるかどうかをみる。

ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する問題である。社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかを把握するために出題されている。

②解答類型と反応率

問題番号	回答類型	◎は正解	国東市	全国
1	(3)	1 と解答しているもの	14.4	10.7
		2 と解答しているもの	14.4	11.6
		3 と解答しているもの	30.0	20.4
		4 と解答しているもの ◎	40.0	56.6
		上記以外の解答	0	0

	無解答	1.1	0.8
--	-----	-----	-----

◆分析と課題

- 正答率は 40.0%である。社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることに課題がある。
- 解答類型 1、2、3に該当する生徒は、書き手の最も伝えたいことと、文章全体の話題や例示などとの関係性を把握することに課題があると考えられる。
- 平成 31 年度（令和元年度）【中学校】英語⁷（正答率 全国 33.5%：国東市 29.4%）において、複数の段落からなる「まとまりのある文章を読んで説明文の大切な部分を理解すること」に課題が見られた。

これに関連して、本設問では、「社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうか」をみる問題を出題したが、正答率は 国東市 40.0%であった。今回の結果から、複数の段落からなる文章の要点を捉えることに比べて、一つの段落からなる文章の要点を捉えることは比較的できていると考えられるものの、なお課題がある。

③学習指導に当たって

意見文を読んで、要点を捉えることができるようにする

意見文を読んで、要点を捉えるためには、文章全体を通して読み、複数の情報の中から書き手が最も伝えたいことは何かを判断して捉えることが重要である。

指導に当たっては、以下のような言語活動に取り組むことが考えられる。

- ・ 地球温暖化などの環境問題に関する説明文や意見文を読み、イラストや写真、図表なども参考にしながら、筆者の主張を数文でまとめる活動
- ・ 地球温暖化などの環境問題に関する説明文や意見文を読んで筆者の主張を捉えた後に、自分ができることなどについてペアやグループで尋ね合ったり伝え合ったり、さらにそれを簡潔に書いて表現したりする活動

言語活動を行うに当たっては、繰り返し用いられている語句や同じ内容を言い換えている表現、文章中の問いかけなどを手掛かりにして最も大切な語句や文を選んだり、段落内の文章の構成を把握したりすることが大切である。例えば、本設問であれば、As I explained という表現に着目し、後に位置する情報が筆者の最も伝えたい内容であると捉えることが考えられる。

なお、平成 31 年度（令和元年度）【中学校】英語⁷のように、複数の段落からなる文章を読んで、要点を捉えることも大切である。その際には、段落相互の関係を捉える指導などが考えられる。

9 文法事項や言語の働きなどを理解して正確に書く

設問 (1) ①

①趣旨

◆未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる。

正確に書くためには、音声や語彙、表現、文法や言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けておくことが重要である。本問は、文構造や文法事項、言語の働きなどの知識を活用し、正しい語順で文を構成することや、伝えたいことについての情報を正確に書くことができるかどうかを把握することをねら

いとしている。

設問（１）は、与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる問題である。設問（１）①では、未来表現（be going to）の肯定文を正確に書くことができるかどうかを把握するために出題されている。

②解答類型と反応率

問題番号	回答類型	◎は正解	国東市	全国	
9	(1) ①	1	未来表現（be going to）の肯定文を正確に書いているもの ◎（正答例）・am going to visit	6.7	19.3
		2	未来表現（be going to 以外）の肯定文を正確に書いているもの ○（正答例）・will visit	18.3	20.5
		3	未来表現の肯定文を書いているが、大文字・小文字の書き分け等に誤りがあるもの ○（正答例）・Am going to visit / Will visit	0.6	1.5
		4	未来表現の肯定文を書いているが、誤りがあるもの	1.1	1.8
		5	未来表現以外の肯定文を書いているもの	30.0	22.4
		6	類型5までとは異なる肯定文を書いているもの	31.1	26.8
		7	肯定文を書いていないもの	0.6	0.7
		99	上記以外の解答	1.7	0.6
		0	無解答	10.0	6.5

◆分析と課題

- 正答率は 25.6%である。未来表現（be going to）の肯定文を正確に書くことに課題がある。解答類型 5、6 の反応率が高いことから、特に、会話の流れを理解することや、基本的な語や文法事項等を理解して正確に文を書くことに課題が見られる。
- 解答類型 4 の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- will be visit
- am going visit

このように解答した生徒は、会話の流れから時制を判断し、未来表現の肯定文を書くことは理解しているが、基本的な語や文法事項等を理解して正確に文を書くことに課題があると考えられる。

- 解答類型 5 の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- can visit
- visited
- visit

このように解答した生徒は、会話の流れから肯定文を書くことは理解しているが、時制を正しく判断して文を書くことに課題があると考えられる。

○ 解答類型6の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- am visit
- visiting
- going to

このように解答した生徒は、会話の流れから肯定文を書くことは理解しているが、基本的な語や文法事項等を理解して正確に文を書くことに課題がある、または問題の指示文を正しく理解できていないと考えられる

③学習指導に当たって

場面や状況から文の形式や時制を適切に判断し、正確に書くことができるようにする

場面や状況に応じて正確に英文を書くためには、文脈から適切な文の形式や時制を判断することが大切である。その上で、意味内容の伝達のみにとどまるのではなく、生徒自身が英語表現の誤りに気づき、修正を加えながら正確さを高めていくことが必要である。

指導に当たっては、以下のような学習活動に取り組むことが考えられる。

- 文脈に応じて理解した文法事項を正しく活用したり、活用することを通して文法事項を理解したりする活動
- 書いた英文が相手に正しく伝わるかどうかについて、生徒自身が読み直して誤りを修正したり、ペアでチェックし合ったりして正確な英文に書き直す活動

関連のある文法事項をまとめて整理し、正確に書くことができるようにする

既習の文法事項を適切に使い分けられるようになるためには、関連のある文法事項をまとめて整理し、使い方の理解を深めることが大切である。その上で、再び意味のある文脈の中でより適切な表現を選択して活用することも大切である。例えば、大問9(1)①においては、会話の流れから未来表現を用いて書くことを理解した上で、会話をしている時点からみてこれから先のことを表す未来表現(will)よりも、すでに予定されていることを表す未来表現(be going to)を用いて書く方がより適切であると判断する必要がある。

指導に当たっては、以下のような学習活動に取り組むことが考えられる。

- 既習の文法事項と新しく学んだ文法事項とを比較し、共通点や相違点を考える活動
- 意味のある文脈を設定し、適切な表現を選択して書く活動

学習活動を行うに当たっては、現在形や過去形を学習した後、時制として整理したり、to不定詞や関係代名詞などを修飾という側面から整理したりするなど、関連のある文法事項については、より大きく分類して整理して理解することが必要である。

設問(2)

①趣旨

- ◆ 「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる。

設問(2)は、メールの英文を依頼する表現に書き換える問題である。コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて表現を使い分けるためには、そのための表現を理解しておく必要がある。ここでは、「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかを把握するために出題した。

②解答類型と反応率

問題番号	回答類型	◎は正解	国東市	全国	
9	(2)	1	「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書いているもの ◎ (正答例) ・ Can you come to the speech contest? ・ Could you come to the speech contest? ・ Will you come to the speech contest, please?	6.1	17.1
		2	「相手の行動を促す」という言語の働きを理解しているが、命令文を用いた表現となっているもの (please を文頭に用いているもの) ○ (正答例) ・ Please come to the speech contest.	8.3	9.1
		3	依頼する表現を書いているが、大文字・小文字の書き分け等に誤りがあるもの ○ (正答例) ・ can you come to the speech contest?	1.1	3.6
		4	依頼する表現を書いているが、誤りがあるもの	11.7	9.2
		5	類型4までとは異なる誤りがあるもの	46.1	36.5
		99	上記以外の解答	0.6	0.5
		0	無解答	26.1	24.0

◆分析と課題

○ 正答率は 15.6%である。「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことに課題がある。特に、解答類型5の反応率が高いことから、「相手の行動を促す」という言語の働きを理解しておらず、依頼する表現が身に付いていないことが考えられる。

○ 解答類型4の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ Could you have to come to the speech contest?
- ・ Please you have to come to the speech contest.

このように解答した生徒は、「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を書いているが、基本的な語や文法事項等を理解して正確に文を書くことに課題があると考えられる。

○ 解答類型5の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ Have you come to the speech contest?

- ・ You want to come to the speech contest.

このように解答した生徒は、依頼する表現以外の疑問文になっているなど、「相手の行動を促す」という言語の働きを理解して依頼する表現を書くことができていないと考えられる。または、依頼する英文に書き直すという状況を理解できていないと考えられる。

○ 解答類型0に該当する生徒は、問題の趣旨を理解できていないか、基本的な語や文法事項等の知識が身に付いていないため、解答することができていないと考えられる。

③学習指導に当たって

言語の働きを理解し、場面や状況に応じて表現を使い分けられるようにする

言語の働きを理解し、場面や状況に応じて表現を使い分けられるためには、言語の使用場面やコミュニケーションを行う相手との関係性を意識し、場面や状況に応じた適切な表現を選択することが重要である。

指導に当たっては、以下のような学習活動に取り組むことが考えられる。

- ・ 教科書における登場人物の設定を変更し、適切な表現や言い方に直して音読する活動
- ・ 「親しい生徒同士」や「生徒と姉妹都市の市長」といった関係性の異なる相手を複数設定し、それぞれにおけるロールプレイを比較しながら表現を使い分ける活動
- ・ 既習の表現を同じ言語の働きごとに分類したり、同じ言語の働きをもつ表現同士を比較して相違点を考えたりする活動
- ・ 中学校国語科第2学年において「相手の行動を促す」という言葉の働きを扱っていることを踏まえ、国語科の指導と関連付けて言語の働きを理解し、英語における「相手の行動を促す」という言語の働きを類推する活動

学習活動を行うに当たっては、実際のコミュニケーションにおいて複数の表現を取り上げた上で、使用した表現を共有し、分類や比較を通して表現がもつ言語の働きを考えることが大切である。また、理解した言語の働きを別の文脈においても活用できるようにするために、異なる場面や状況を設定して、同じ言語の働きをもつ表現を使い分ける活動を繰り返し行うことが考えられる。

<話すこと>

1 即興で伝え合うとともに、考えとその理由を述べ合う

設問(3)

①趣旨

◆疑問文の特徴を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかをみる。

設問(3)は、動物園でのやり取りの中で、カンガルーが食べるものについて留学生に質問する問題である。疑問文の特徴を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかを把握するために出題されている。

②解答類型と反応率

問題番号	回答類型	◎は正解	国東市	全国	
1	(3)	1	カンガルーが食べるものについて正しく質問しているもの ◎ (正答例) ・ What food do they eat?	0.6	2.4
		2	カンガルーが食べるものについて質問しているが、コミュニケーションに支障をきたさない程度の誤りがあるもの ○ (正答例) ・ What food do kangaroo eat?	1.8	11.0
		3	カンガルーが食べるものについて質問しているが、コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがあるもの	22.1	24.5
		4	相手の発話を踏まえていない質問をしているもの	19.0	18.9
		5	類型4までとは異なる誤りがあるもの	8.6	12.3
		99	上記以外の解答	13.5	11.4
		0	無解答	34.4	19.4

◆分析と課題

○ 正答率は 2.4%である。疑問文の特徴を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用することに課題がある。解答類型3の反応率が 22.1%と高いことから、大問9 (1) ②と同様に、疑問文の語順などの特徴についての理解が十分ではないことや、それを活用する技能が十分に身に付いていないことが考えられる。

○ 準正答（解答類型2）の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ What food do kangaroo eat?
- ・ What is kangaroo eating?

このように解答した生徒は、英語の表現に関して、冠詞の脱落、三人称単数現在形の誤りなど一部不正確な表現は見られるが、文構造の誤りはなく、聞き手に伝わる英語で質問している。

○ 解答類型3の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ What food kangaroo eat?
- ・ What they do eating?

このように解答した生徒は、カンガルーが食べるものについて質問しているが、助動詞（do または does）の脱落や語順の誤りが見られることから、疑問文の特徴を理解して、基本的な語や文法事項等を用いて質問することに課題があると考えられる。

○ 解答類型4の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ What is kangaroo?
- ・ What food do you eat?

このように解答した生徒は、相手の発話を踏まえずに質問をしていると考えられる。

○ 解答類型5の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ Kangaroo eat.
- ・ I have kangaroo.

このように解答した生徒は、相手からの質問を聞き取ることができていない、または疑問文の特徴を理解していないと考えられる。

○ 無回答率は34.4%と非常に高くなっている。イラストや説明から状況把握ができなかったことが原因と考えられる。また、状況把握まではできていたが、どのように尋ねればよいのかがわからず、発言できなかったことが原因と考えられる。

③学習指導に当たって

対話を継続・発展させるために、関連する質問をすることができるようにする

対話を継続・発展させるためには、相手に聞き返したり確かめたりすることや、相づちを打ったり、つなぎ言葉を用いたりすること、相手の答えを受けて、自分のことを伝えることだけでなく、相手の答えや自分のことについて伝えたことに関連する質問を付け加えることが重要である。

指導に当たっては、以下のような言語活動に取り組むことが考えられる。

- ・ 会話の流れに応じて関連する多様な質問を即座にする活動

言語活動を行うに当たっては、Yes-No 疑問文や or を含む選択疑問文、Wh-疑問文などについて、語順、動詞の形の変化、イントネーションなどを意識するよう指導者が声かけをすることが大切である。また、疑問文を実際のコミュニケーションにおいて正しく活用できるまでには時間を要するため、疑問文を用いて話したり書いたりすることを、3年間を通じて継続的に行うことも大切である。例えば、教師が用意した質問で言語活動を始めるのではなく、生徒自身が教師や外国語指導助手 (ALT) に質問する場面や生徒同士で質問し合う場面を設定し、適宜正確さを高める指導を行うことが考えられる。